

# 『真州長蘆了禪師劫外錄抄』の研究（中）

禅籍抄物研究会  
代表 石川 力山

## 「岸澤文庫」訪書誌—はじめに—

昨年度から課外ゼミで、中世末の曹洞禪僧貫之梵鶴（一五〇五～九〇）が『真歇和尚劫外錄』に注した、『劫外錄抄』をテキストに輪読を開始した。その段階では、岸澤文庫所蔵の

原本を実見するに至らず、資料提供を受けたコピーを用いて

原文の解読を行っていた。しかし、解読の途中で、それが墨跡かシミか、それとも写真撮影、あるいはコピーの際の影か等の判断がつかない箇所も多く出てきた。こうしたことでもあって、一度は原本を拝覧してその筆写状況を把握したいと念願していたが、岸澤文庫の所在する旭伝院現住田中慶道師に御多忙の中を時間を割いて頂き、ようやくお許しを得て、一九九五年四月十九日、博士課程の飯塚大展氏とともに参上し、原本を拝見することができた。

またこの際に併せて、同文庫に所蔵される真歇関係の典籍

も調査し、『劫外錄』のテキストを幾種類か出庫して頂き拝見できたので、前回と重複する部分もあるが、書誌的確認をしておくためにも、今回の調査結果を中心に、その概要について紹介しておきたい。

## 岸澤文庫所蔵の真歇関係典籍

今回拝覧することができた、岸澤文庫所蔵の真歇関係の典籍は、次に掲げるよう、抄が二種、『劫外錄』本文が三種の、計五種のテキストである。

- ①『真州長蘆了禪師劫外錄抄』（貫之梵鶴抄本）
- ②『真州長蘆了禪師劫外錄抄』（伝、万安英種抄）
- ③『真州長蘆了禪師劫外錄』（寛永七～一六三〇）年、四条中野市右衛門版）
- ④『真州長蘆了禪師劫外錄』（寛永後刷本、寺町藤屋古川三郎兵衛版）

⑤『真州長蘆了禪師劫外錄』（明和四～一七六七年、面山較正重刻本）

これら諸本の梗概については、すでに前稿で詳しく紹介したものもあり、新たにつけ加えることといえば、寛永版の後刷り本が存在したことだけであるが、寸法等に関して若干の訂正もあり、これら諸種のテキストの書誌的確認とともに、特に文庫の創立者であり収集所蔵者であった、故岸沢維安老師による参究のノートともいべき様々な書き込みや異本校合の痕跡は、『劫外錄』の本文研究はもとより、日本における『劫外錄』受容の歴史を解明するのに多くの示唆を与えてくるので、改めて簡単な書誌的概説をしながら、注目すべき点について触れておきたい。

①『真州長蘆了禪師劫外錄抄』（貫之梵鶴抄本）

一、冊数 一冊。

一、大きさ タテ二八・三センチ ヨコ二〇・二センチ。匡郭・野あり。「匡郭内、タテ二五・三センチ ヨコ一七・三センチ」

一、刊写 写本（一巻）。

一、装丁 袋綴じ。

一、標題 題簽「真州長蘆了禪師劫外錄抄」（後筆）

なお、前回の稿で「裏表紙の見返しには、昭和十一年（一九三六年、一九三六年）十一月二十一日付の、所蔵者岸沢氏の筆跡と思われる、峨山以来、貫之梵鶴・淵室玄龍に至る法系譜、金龍寺・常光院の住所、常光院開山の系譜、鳳仙寺・瑞巌寺の住所、寛永・元亀の皇紀による年号換算、大乘開山の註等に関するメモが付されている」としたが、これは裏表紙ではなく、別紙に書かれて挿入されていたものが、写真撮影の際に紛れ込んだものであった。ただし、筆跡は確かに岸沢

一、枚数 表紙・裏表紙共四十五枚、本文四十三丁  
一、行字数 每半葉十行、原文二十九二十二字、抄三十ノ三  
十四字

一、内題 「真歇長蘆了和尚劫外錄」

一、尾題 「長蘆寂庵真歇了和尚劫外之錄終」

一、序跋等 中橋居士吳敏の「序」あり

一、奥書等 「長蘆二十二世末葉、瑞巌老比丘貫之鶴謹抄旃了于時元亀式天辛未（一五七二）初秋下澣 道号名印」

一、筆者 「悦翁下之僧玄龍、寛永十九（一六四二）極月、

小高常光院冬之江湖衆寮ニテ書写之畢」

一、その他 匡郭欄外の上部に別筆による本文の要点、抜書きあり

師のものであった。

表紙・裏表紙ともに、後の補填で、題箋も岸沢師のものであろう。さらに、各丁の版心下部に付けられた、序の「一〇二」、本文の「一〇四一」の丁数字は、やはり岸沢氏によつて加えられたもので、本文中にも、岸沢氏自身による校訂の痕跡や付加部分があるが、これらはいずれ、本文校訂の際に個々の部分についてその旨を明記することにしたい。

- ②『真州長蘆了禪師劫外錄抄』(伝、万安英種抄)
- 一、冊 数 現、二冊(旧三冊、中巻欠)帙あり。
  - 一、大きさ タテ二十七・一センチ ヨコ十八・八センチ。
  - 匡郭あり。「匡郭内、タテ二十一・九センチ  
ヨコ十五・三センチ」
  - 一、刊 写 刊本(現存二巻)。
  - 一、装 丁 袋綴じ。
  - 一、標 題 帚題箋「劫外錄抄」  
題箋「劫外錄鈔」
  - 一、枚 数 上巻、序文・本文共二六枚、下巻、二〇枚
  - 一、行字数 原文、每半葉八行、一行二十七字。  
抄文、每半葉一六行、一行三〇字。
  - 一、内 題 「真州長蘆了和尚劫外錄抄」
  - 一、尾 題 上巻「劫外錄抄終」

下巻「長蘆寂菴真歇了和尚劫外錄抄下終」

一、序跋等 中橋居士吳敏の「序」あり。

一、刊 記 明暦丁酉(三年、一六五七)仲冬吉旦

寺町誓願寺前

西村又左衛門新刊

一、その他 表紙裏に「元嶺叟印(花押)」、上巻裏表紙裏に「大令的」、下巻裏表紙裏に「大令領」、下巻抄末に「寂道叟」の墨書き。

近世初期洞門の碩学万安英種(一五九一～一六五四)の手になると伝えられる禅籍抄物は、『臨濟錄抄』『永平元禪師語錄抄』『人天眼目抄』(漢文抄・仮名抄)をはじめとして、十数種知られており、本書『真州長蘆了和尚劫外錄抄』もその一であるが<sup>(2)</sup>、いずれも万安の抄である事実を示す根拠はなく、伝承にとどまる。

この伝万安抄は、本来は上・中・下の三巻あつたはずであるが、岸沢文庫本はそのうちの上・下の二巻で、中巻の上堂二十七段の抄は現在見られない。一方、そのカナ抄文は、中世から近世初期にかけての口語語法を研究する上からも重要なテキストであるが、この岸沢文庫本は天下の孤本で、その意味からも貴重な伝本であり、中巻の発見・出現が待たれる。

ようには曹洞宗における相伝書的意味をもつて伝えられたこともあり、写本も存した形跡はあるが、中国における伝本はもとより、日本の中世の伝本も、現時点では見出せない。今日、万安抄本は異本の校訂には欠くことのできないテキストの一本であることは、前稿で触れたところである。

③『真州長蘆了禪師劫外錄』（寛永七～一六三〇）年、四条中野市右衛門版

一、冊数 一冊

一、大きさ タテ二十八・〇センチ ヨコ十八・八センチ。

匡郭アリ。「匡郭内、タテ二十一・二センチ ヨコ十五・六センチ」

一、刊写 刊本（一巻）。

一、装丁 袋綴。

一、標題 題簽「真州長蘆了禪師劫外錄」（後補）

一、枚数 三十五枚。

一、行字数 每半葉九行、一行十七字。

一、内題 「真州長蘆了和尚劫外錄」

一、尾題 「長蘆寂菴真歇了和尚劫外之錄終」

一、序跋等 中橋居士吳敏の「序」あり。

一、刊記 寛永七年庚午小春吉旦

四條中野市右衛門梓行

一、その他 表紙裏に「大龍山常什 玄津置」の墨書きあり。

この寛永七年版は、駒沢大学図書館所蔵の寛永七年本と全く同版で、今日確認される『劫外錄』テキストの最古の版本である。寛永本の原本となつたテキストについては、刊行時の序・跋等がないので、版行の経緯も含めて不明であり、中世に少なからず流布しており、寛永本に受け継がれたと考えられる『劫外錄』が、宋本系の版本かそれとも写本かも不明である。後述の面山は、寛永本に数十の写誤があるとするが、この指摘についても、他のテキストによつて写誤と判断したが、それとも分脈上からの独自の判断かは知られない。面山が東福寺良岳院（軒）所蔵本を得てこれを善本と判断したのは、塔銘に先行する序、すなわち真歇の詳伝が備わつたものであつたからであり、語録本文の写誤を補うまでには至らなかつたと思われる。しかし、梵鶴抄本のテキストや伝万安本の本文と寛永本は、比軽的近い位置にあり、全容は不明であるが、知られる限りでの『大乘開山徹通和尚之註』の語録部分とはかなりの相違が見られるので、寛永本がそうした系統の伝本を継承する一本であることは間違いないところである。

本書の巻頭に近い部分の匡郭外には、いくつかの注記が見られ、本文中にも細字の書き込みが全体的に見られるが、こ

れが誰の手になるものかは知られない。

変更されている。

④『真州長蘆了禪師劫外錄』（寛永後刷本、寺町藤屋古川三郎兵衛版）

一、冊数 一冊。

一、大きさ タテ二十七・三センチ ヨコ十七・九センチ。

匡郭アリ。「匡郭内、タテ二十一・二センチ  
ヨコ十五・六センチ」

⑤『真州長蘆了禪師劫外錄』（明和四～七六七年、面山校訂本）

一、冊数 一冊。

一、大きさ タテ二十六・六センチ ヨコ十八・五センチ。

匡郭アリ。「匡郭内、タテ十九・九センチ ヨコ十五・〇センチ」

同「劫外錄」「切」

一、刊写 刊本（一巻）。

一、装丁 袋綴。

一、標題 題箋（打ッケ）「真州長蘆了禪師劫外錄」（後補）

一、行字数 每半葉九行、一行十七字。

一、内題 「真州長蘆了和尚劫外錄」

一、尾題 「長蘆寂菴真歎了和尚劫外之錄終」

一、序跋等 中橋居士吳敏の「序」あり。

一、刊記 書林寺町松原上ヶ町

藤屋古川三郎兵衛版梓

刊記を変えてはいるが、本文は寛永七年本に全同の後刷り

本で、版木はそれほど磨滅もしていないので、寛永をさほどくだらない時期に再刊されたものと思われる。ただし書肆は

郭外頭部、および行間等に詳細な注記・出典等が書き込まれており、参究の跡が偲ばれ、今後の輪読にも大いに参考にしたい註である。

（一一五八）正月旦」の序あり。

一、刊記「肥後雲龍山清潭禪寺 藏版」

一、その他 付録として、「華藏無尽灯論」「戒殺文」「淨土宗要」「自贊」「真歇了禪師」「船子夾山話（頌）」「惠超問仏（頌）」等を各種文献より収集し掲載する。

前稿で紹介した駒沢大学図書館所蔵本と同じ、面山の較正・重刻本で、寛永七年刊行の『劫外錄』の本文に写誤が多いとして、自らテキストを求めて校訂し出版したものである。前述の面山が披見した東福寺良岳院所蔵本がいかなるものであつたかは不明であるが、梵鶴抄本・寛永本と面山本では、

本文中に多くの異同がある。また良岳院本によつて掲載した「塔銘」には、改めて「序」を加えて、宏智正覚撰文の日時まで詳しく記載する。しかし、中橋居士吳敏の序を「紹興二十八年（一一五八）正月旦」とするのは、真歇の寂年を前提にした憶測とされるように、恣意的な改訂も目に付く。

岸沢文庫所蔵の面山本の行間には、全編に「大乘開山徹通和尚之註」が著語として書き込まれており、また頭部匡郭外尚の註」の注釈や異本の校訂がなされている。そして巻頭の頭注の記載によれば、

本者、享保四亥年、天福山周徳精舎冬安居、龍光求焉之本、此本藏在但州養父郡那佐村大字大江養泉寺室中焉。  
とあり、その原本の所在が知られる。ただし、これらについては未調査で、いずれ両寺にも足を運ばなければならないと思つてゐる。

しかし、この行間に記された「徹通和尚之註」は、西明寺本との校訂に用いることもできる克明な書き込みであり、これ自身で「徹通和尚の註」の現本再現も可能である。また、実は岸沢文庫にも「徹通和尚之註」が所蔵されていると思ふ。こんで訪問したのであるが、これは発見されなかつた。

◇ ◇

今回の岸沢文庫御所蔵の『劫外錄』関係典籍の調査は、現住田中慶道老師の特別のお計らいによるものであり、誌面を借りて心より厚くお礼申し上げたい。書籍の管理や在庫の確認は、現代的な機器類によつてなされているわけではなく、すべて御手づから出庫・収納される煩わしさをお懸けしてしまうことになつた。こうした先人の蓄積の御業績の忠実な継承によつて、はじめて法寶が後世に受け継がれることを思いつつ、文庫を辞去した次第である。

『劫外錄抄』の研究は、本号で第二回目の掲載となり、次号で完結の予定であるが、貫之梵鶴関係の抄物は他にも、

に、註者自身の筆になるものが現存しており、いずれこれらも含めて総合的な研究が計画されなければと思案している。

### 注

(1) 金田弘「万安英種の『永平元禪師語録抄』と『人天眼目抄』」(桜風社刊『洞門抄物と国語研究』所収、一九七六年一月)、中山成二「万安永種に擬せられる抄物について」新編江湖風月集略註鈔一(駒沢大学仏教学部論集)九号、一九七八年一一月)等参照。

(2) 『新纂禪籍目録』(一九六二年六月、日本仏書刊行会刊)二二一頁。

(以上、文責石川力山)

### 『劫外録抄』のことばの特徴について

本稿では、貫之梵鶴の『劫外録抄』について、その口語的表現の一面を明らかにしたい。本抄は、ゾ体の仮名抄物であるが、先ず、その文末表現について、次ぎに、接続助詞の「ホドニ」について考察する。次ぎに、擬態語・擬音語の用例を挙げ、更に洞門抄物に特徴的と思われる「沙汰」「アツカイ」「唱ヘ」「エズイキ」等の言葉を取り上げる。私は、担当となつたため、国語学的知識に著しく欠如しているにも関わらず、このような一文をものしたが、洞門抄物を註釈書としてきちんと読み解く作業は、禅宗史を学ぶものとして必要

と考えた事が今回の動機となつてゐる。用例の羅列でありますに口語的側面をくみ取ることができなかつたことを、あらかじめおこわりしたい。

はじめに、文末表現について見てみたい。

#### 【洞門抄物特有の助動詞「ダ」を伴う「ダゾ」の用例】

- 爰ガ、祖師ノ玄妙不可得タゾ。(1オ)
- 爰ガ、真聞タゾ。(1オ)
- 是ハ、本来ノ天ヲ令知為タゾ。(1ウ)
- 今日ナレトモ、正法輪ヲ示セバ、毒手タゾ。(3オ)
- 向上ノ智不到タゾ。(5ウ)
- 爰ガ、両頭ノ荷イヤウタゾ。(6オ)
- 如此見レバ、一致タゾ。(9ウ)
- 此ニノ大小ヲ一掃スレバ、中ノ人斗タゾ。(10ウ)
- 眼テ聞、耳デ見タ時ガ、純真タゾ。(11オ)
- 一切一中タゾ。(13オ)
- 念一一力ハ、依教ノ修行タゾ。(13オ)
- 自心トハ、一切一中タゾ。(13ウ)
- 此時、本心タゾ。本性タゾ。(17ウ)
- 微笑スルガ、古渡ニ残タ春ヲ流出シタ、アラワシヤウダゾ。(21ウ)
- 四維上下ニ塞タ物タゾ。(21ウ)

○無妄云真、不變云如ト云タ程ニ、真如ト云ハ、実相タ  
ゾ。（28ウ）

○異ガ類スルハ、却来タゾ。（28ウ）

○没滋味ニ、咬着ノ処ガ、凡聖ノ消息断タ処タゾ。（28  
ウ）

実際には、「ダゾ」の文末終止よりも、「ナリ」方が用例は  
多いが、口語的表現を中心を考えているため、ここでは割愛  
する。

〔形容動詞の連体形＋「ゾ」および助動詞「ナリ」の連体形  
＋「ゾ」の用例〕

○了事底人トハ、修行果満シタ人トハ、頭々物々ノ上、不  
妨明白ナゾ。（14ウ）

○取レバ、キラリツト晴テ、白月ナゾ。（17オ）

○トハ、今生デ能ク修行シテ、生死ヲ透脱スレバ、自由ナ  
ゾ。（29ウ）

○トハ、此事ハ知ラントスルニ依テ、大難ナゾ。（30オ）

○爰デ、何共辞ノ無ガ、奇特ナゾ。（34オ）

上記のように、「ナゾ」の用例の方が多いが、「ナルゾ」の  
用例も見られる。

○古人ハ、皆以如此、生死ニ無碍、自由自在ナルゾ。（3  
1ウ）

連体形「ナル」の用例は、助詞「ヲ」に接続する場合に見  
られる。

○トハ、真正ノ見解、本分ノ作家ノ見地明白ナルヲ云也。  
(28オ)

○トハ、回互傍参シテ、家風細密ナルヲ云。

名詞に接続する「ナリ」は「ナ」の形を取ることが多い。  
○サテ、妙ナ聞ヤウヨ。（9オ）

○ト云心ハ、入水テモ、不遷ナ一物ハ、入火テモ、焼ネ  
ハ、不遷ナ物ヨ。（33ウ）

○此話ハ、女子ノ何ヲモ知ラズシテ、愚ナ処ガ、仏ニ近  
ヅ。（34ウ）

○故ニ、休処ガ、シタ、カナ事タゾ。（35ウ）

○トハ、我ヲ蜂子ト見タハ、大胆ナ者カナ、ト抑下シテミ

タゾ。（36オ）

名詞に接続する場合、「ナル」の用例は少ない。

○トハ、生死自由ナル人ヲ云タゾ。（30オ）

他に、「ヤウナガ」の用例が見える。

○証明シタヤウナガ、底イハ、落シ語也。（36ウ）

〔「デアル」「デナイ」「デサウ」の用例〕

○トハ、種田行履ナラズンバ、何ニカ庵主デ有ウズゾ。

○我動ハ、サテハ、勇デハサウヌカト、随分鼻孔並。（3  
6オ）

○功デモ位デモ無ゾ。(6オ)

○トハ、功位偶正回互ニ窟宅シタハ、祖師禪ノ活機デハ無  
ゾ。(7オ)

○サテ、新デハナイカ。(16オ)

○鳥白如漆、黒デモ無ク、白デモナイゾ。(18ウ)

○サテコソ、長ニ明デアレ。(21オ)

因みに、「ザウ」表記の用例は、他に次の二例のみであ  
る。

○大小便ノ進ムヲバ、知ル物ゾウカト也。(33ウ)

又、助動詞「ウズ」の用例は、上記のもののみである。

#### 〔マジイゾ〕の用例

○トハ、親クハ見ヘマジイゾ。(33ウ)

○トハ、フツ、ト理ヲ説破ヲ、説タ事ハ、有ルマジイゾト  
也。(34オ)

他に次の用例がある。

○トハ、物々ニヒツカ、ツテ、自由自在ノ義有マジキ也。

(28オ)

因みに、瑞岩寺蔵『貫之梵鶴代語抄』(金田弘『洞門抄物

と國語研究』(資料編)所収)にも、以下の用例が見られる。

○不知ノ知ニ淵底セバ、霄漢ヨ。父ヨ。銀籠ヘハ、立帰ル  
マジイゾ。

○吟罷トハ、知ラレマジイト、隙ヲアカル処ハ、那辺ヨ。

#### 〔動詞「見ル」+助動詞「ベシ」の用例〕

○文章ニ取合テハ、見ベカラズ。(7オ)

○去ノ字ニ付テ、向去トハ、見ベカラズ。(15オ)

○良久ノ處ヘハ、如此含テミベシ。(15ウ)

他に、「見ルベカラズ」の用例がある。

○大乗云、覓ントセバ、夢ニモ見ルベカラズ。ゲニモカ  
ナ。人々具足ナホドニナリ。(24オ)

#### 〔力行変格活用の動詞「デクル」の用例〕

○何共落着スレバ、味ガデクルゾ。(25ウ)

音便形に関しては、以下の用例が見られる。

○トハ、物々ニヒツカ、ツテ、自由自在ノ義有マジキ也。

(28オ)

○古人ハ、許サビツタゾ。(31オ)

○師ノ胸懷ヲ不残、サガイテ見タゾ。(36オ)

○任運トハ、ドチヘツケウ共儘ノ手段ナリ。(40オ)

因みに、助動詞「ウ」の用例は上記のみである。

貫之梵鶴の『劫外録抄』と、伝万安英種抄とされる『劫外  
録抄』(以下「万安抄」と、その文末表現を比較してみる  
と、後者の方がより多様であることがわかる。

○其ノ時ハ、師ノ僧ノ礼ノ為ニ当ツテ、オコヅイテノ辞バ  
デソロゾ。

○無面目ノ当位デヤ。

○用イ得タ上ニハソロヌ。

○何共手ハ付ヌ、陰位一辺ノ処ニ、別ニ云イコトハソロヌ。

○如法ナ御僧デソロナ。

勿論テキストの性格を考慮しなければならないとは思うが、「万安抄」の方がより口語的色彩が濃いと言つてよいと思われる。

### 〔接続助詞「ホドニ」の用例〕

○功ヲモ位ヲモ転ジタホドニ、石女ノ登タ機ナレバ、文彩

モ不彰、梭ヲ可拋沙汰モ無ゾ。(7ウ)

○青霄トハ、法身ノ境界也。妙応ナホドニ、白雲ハ用也。

(8オ)

○紹了非其功ナホドニ、忘荷両端ゾ。(10オ)

○位裡デ誕生ナ程ニ、未帶今時機也。(13オ)

○何ニモ似ヌ体ナ程ニ、玄也、ト云タゾ。(16オ)

○双六トハ、一ヨリ六迄、目ヲモル故ニ、両彩ナ程ニ、双六ト云也。(16オ)

○戸外ナ程ニ、目前ノ景色也。(21オ)

○絶今時一味タ程ニ、蹤跡モ、方処モ、涯際モ、畔岸モ無

ゾ。(25ウ)

○如此云ヘバ、皆只遠ク心得ル程ニ、只今モ。(26ウ)

○山云、作麼々々。トハ、徳山ハ、吹滅下ノ、即心是仏ノ

骨法ナ程ニ、衆生諸仏ノ阻モ無ク、彼此ノ差別ヲ不立間タ、去來ノ相ヲ分別セヌゾ。(35ウ)

「梵鶴抄」では、主に「タホドニ」「ダホドニ」「ナホドニ」の用例が見られる。これらは、接続助詞として、前文と後文とを密接につないでいるが、次の用例は、意味的連関性は同じであるが、文と文との間に、一息息継ぎがあるようと思われる。

○極陰ノ地ハ、陰ノ沙汰モ無ゾ。程ニ、尽キ消ナリ。(21ウ)

○トハ、正途ニ浮タ舟タゾ。ホドニコソ、載月タレ。(39ウ)

この区別は、無意味かも知れないが、接続詞として自立語とも考えられるのではないかという、私の思いこみによるものである。

### 〔サカイ〕「マツサカイ」

○トハ、ゲニモマダ一氣欲生サカイナホドニ、紅白ノ色ワ、現成セヌゾ。(8オ)

○陰陽ノサカイナリ。(8オ)

○此ノマツサカイヲ乞也。(8オ)

○トハ、大乘云、人々分上ノ一顆ノ摩尼珠也。此珠ニ求付サカイ。(29オ)

上記の用例は、接続辞としての機能は果たしていないのでは

ないかと考える。東大史料編纂所蔵『人天眼目抄』の次の用例とは異なるものであろう。

○木人人、キリ、トオキカヘルサカイニ、夢ワ破レタゾ。

(290頁)

#### 〔接頭辞「薦（マツ）」の用例〕

○薦夜半タゾ。(8ウ)

○薦此端的、久遠・今時、隔ナイゾ。(18オ)

○トハ、マツサウタゾト、趣向ノ辞也。(33オ)

因みに、梵鶴の『代語抄』にも、「マツ爰」の用例が見える。

○マツ爰ノ菴中ニ、妙葉トハ、不老不死ノ理アルナリ。

#### 〔接続詞の用例〕

○サレ共、猶ヲモ細ニセデハ。(7ウ)

○サテ又、位ヲモ守ラズ、二位ニ不墜ナリ。(14ウ)

○サテ、仏祖ノ深機ハ、密旨ト云ハ、可高山ハ高ク、可深海ハ深、可流河ハ流、可消雲ハ、消シタゾ。(17オ)

○夫ヲバ、何ト弁シタゾ。ナレバ、不犯ガ、弁シヤウ、已前ノ妙訣也。(20オ)

○サテコソ、玄旨ト問ヘバ、如死人舌トハ答タレ。(26オ)

○来処ヲ問ヘバ、来処ヲ答ヘ、甲子ヲ問ヘバ、甲子ヲ答ヘタハ、脚踏実地タゾ。有ルヲモ、照云、猶自乱走在。トハ、前ノ來底ニ当テ、落タゾ。(34ウ)

○卒度ハヤ暁氣ヲ催シタゾ。アレ共、マダ木鷦子居タゾ。(40オ)

#### 〔擬音語・擬態語の用例〕

○如此、先キツカト、正ト偏トヲ分テ置テ、一致ニセデハ也。(3ウ)

○雲モ不藏、キラリツトシタゾ。(4ウ)

○可釣ト思ヲ、忘却シタ時、チャツクト金リンガ、上鉤たゞ。(14オ)

○大乘云、淨裸々赤洒々、キラリツト、物ノシタ事ヲ云也。(14オ)

○千年ノ鶴、月巣ニ、トツクト宿シタゾ。(19ウ)

○松風ハ、サワ／＼、流水ハ、サツ々コソ、真ノロニシテ、西來シタ直旨ノ唱ヨ。(20ウ)

○トハ、フツムト理ヲ説破ヲ、説タ事ハ、有ルマジイゾト也。(34オ)

○荒郊トハ、冬野荒タ処ヨリ、又ミルミルト萌出也。(40オ)

上記の用例は、ほぼ他の抄物の中に見出し得るものであり、洞門抄物の一つの特徴である。

「梵鶴抄」において、少しく特徴のある言葉に「沙汰」「アツカイ」「唱ヘ」等がある。禪籍特有の、例えば五位関係の術語や、公案理解のための術語については、整理し体系化す

る必要がある。今、上に掲げた三語は、宗門における公案のとりあげ方、理解のしかた、又は教えそのものを指すようである。

以下用例を挙げる。

○一向ニ人跡稀ニシテ、何ノアツカイ、唱モ無キ処也。  
(7オ)

○碧霄雲外、更ニ何ノアツカイモ無処、真実尊貴ノ位也。

(15オ)

○頭角トハ、功位偶位ノアツカイ也。(17オ)

○前ハ、功ヨリ位ヘ向去シ、位裡ヨリ功處ヘ却来シ功位偏正ノ沙汰迄タゾ。(19オ)

○雲トハ、功位・偏正ノ、洞上ノ唱ヘヲ、云タゾ。(19  
オ)

#### 参考文献

金田弘『洞門抄物と国語研究』(桜楓社 一九七六年一一月刊)  
ヲ、掃尽シテ、異中異ニ到ル様子ヲ云也。(24ウ)  
他に、類語として「アイシライ」の用例がある。

○山便休シタハ、何共アイシライ有レバ、様子ガ定ル故ニ、便休シタゾ。(35ウ)

最後にもう一語「エズイキ」を取り上げたい。

○是モ、底イハ、眠ヲ惺セト云、エズイキデ、与タゾ。  
(35ウ)

この語は、「梵鶴抄」に一例しか見出せないが、洞門抄物

独特の言い回しではないかと思う。因みに、『時代別国語辞典室町時代編』は「エズイ」の項に以下の例を掲げる。

○去咲呵々トハ、ニツコト笑ウ中ニ、何様エズイ機ガ有  
ゾ。〔報恩録〕下)

○只礼拝シリゾケト、ダルンデヲリヤル処ニ、電巻星  
ヲ飛セタヨリモ、エスイ機ガオリヤル程ニヨソ、平生言  
語人、如何共シ難イ事ヨ。〔禅林類聚鈔〕三)

「エズイキ」は、毒氣を含んだ鋭い働きを意味すると思われる。先にも述べたように、洞門抄物の読解を困難にしているのは、禅籍特有の、或いは洞門抄物独特の用語であるから、これらの意味の確定は、急務であると考える。今後の課題としたいた。

湯浅幸吉郎『室町時代言語の研究』(風間書房 一九八一年再版)  
鈴木博『周易抄の国語学的研究』(清文堂 一九七二年三月刊)  
中田祝夫『人天眼目抄』(勉誠社 一九七五年六月刊)

(文責 飯塚大展)

## 「翻刻凡例」

一、本資料は、岸沢文庫に所蔵される『真州長蘆了禪師劫外錄抄』(貫之梵鶴抄)を忠実に翻刻しようととするものであり、

『劫外錄』の本文については、今日知られる範囲で異本校訂の結果を注記した。ただし、改丁については( )内に丁数・表裏(オ・ウ)を付記したが、改行は指示しなかった。

一、翻刻に当たっては、異体字・略体字・別体字・俗字等も忠実に再現することとめたが、省文等、活字用正字に改めたものもある。また、省略された慣用禅語等について

は、必要に応じて「」内に補つた。

一、『劫外錄』の異本校訂に用いたテキストは、基本的には「寛永本」「面山本」二本で、それぞれ「寛本」「面本」の略称を用いた。「万安抄本」は岸沢文庫本には中巻欠のため、今回の校訂には使用できなかつた。

一、『大乗開山註』に引用された本文についても、該当する個所があれば「大本」と略称して校訂に用いた。

一、『大乘開山註』に引用された本文についても、該当する筆跡で、抄の内容を出るものでもなかつたので、今回はこれを省略した。

一、上堂以下の部分については、整理のため各段落にしたがつて通し番号をつけた。

一、『大乗開山註』の存する部分については、各段落ごとに、二字下げ、活字のポイントを落とし、一括して掲げておいた。岸沢文庫所蔵の面山本に書き込まれた『大乗開山註』との校合は( )内に記した。

一、今回の翻刻は、全体の三分の一の分量に当たり、前回と合わせてほぼ三分の二が本刻できることになる。次回で、翻刻・本文校訂の作業を終了する予定であるが、新出資料が出現したならその都度異本校訂作業に反映させ、また本文・抄の出典注記、誤記等の訂正も行つて作業を完了させたいと思っている。

一、一九九五年度における本研究会の参加者は、曹洞宗宗学研究所所員熊本英人・同尾崎正善・同中野優子・大学院博士課程飯塚大展・同修士課程道津綾乃・浅井本義の諸氏であり、研究員として仏教学部に在籍中の、都留文化大学教授樋渡登先生の御参加も得、特に国語学的な分野で日々御教示いただいた。今回の翻刻部分の原稿作成は、石川・尾崎・飯塚・熊本・道津・浅井の各氏の手になるものである。

本 文 校 定

(31) 上堂云、日月鎮<sup>ニ</sup>長冥<sup>ニ</sup>、古今常不<sup>レ</sup>改。改義ナリ。サテ又、(15ウ)<sup>カ</sup>如何特地新。ナル  
義ヲ舉タラ、各要<sup>レ</sup>施<sup>シト</sup>三一拂<sup>ヲ</sup>宗門<sup>デ</sup>、新ナト云ハ、更ニ何ニモ皆セ<sup>シニワ</sup>。サテ、礼拂セデワ。<sup>ラレヌ義タゾ。</sup>及尽無依、躰自<sup>ノ</sup><sub>ノズカラ</sub>玄<sup>ト</sup>無依<sup>ト</sup>ハ、  
昼テモ無ク夜<sup>デ</sup>モ無ク、黒<sup>デ</sup>モ白<sup>デ</sup>モ無ゾ。何ニモ似<sup>シ</sup>双<sup>一</sup>六盆中休<sup>レトナウル</sup>喝彩<sup>ヨ</sup>。双<sup>六</sup>トハ、一ヨリ六  
ヌ体ナ程ニ、玄<sup>ト</sup>云タゾ。サテ、新デハナイカ。双<sup>一</sup>六盆中休<sup>レトナウル</sup>喝彩<sup>ヨ</sup>。迄<sup>シ</sup>目ヲモル故ニ、  
両彩ナ程ニ、双<sup>六</sup>ト云<sup>ハ</sup>。喝彩<sup>ハ</sup>、乞目ヲ、互ニ励<sup>シ</sup>声<sup>ハ</sup>。黒石白石ヲ、昼夜ニ<sup>作</sup>(磨)<sup>ベンゼン</sup><sub>シ</sub>用イ、<sup>シ</sup>双<sup>六</sup>ト合テ、十二<sup>シ</sup>用<sup>ハ</sup>。休<sup>レ</sup>喝彩ト、黙ト<sup>シ</sup>居<sup>ヨ</sup>、ト云義ナリ。作广生弁<sup>レ</sup>得<sup>一失</sup>。  
々々ハ、良久云、十語九<sup>タヒ</sup>中<sup>ルモ</sup>、不<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>一默。十度ノ乞目ガ、九度中タモ、目ヲモ不<sup>レ</sup>乞<sup>メ</sup>、  
勝負<sup>ゾ</sup>。爰久云、十語九<sup>タヒ</sup>中<sup>ルモ</sup>、不<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>一默。十度ノ乞目ガ、九度中タモ、目ヲモ不<sup>レ</sup>乞<sup>メ</sup>、  
勝負<sup>ゾ</sup>。良久云、十語九<sup>タヒ</sup>中<sup>ルモ</sup>、不<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>一默。十度ノ乞目ガ、九度中タモ、目ヲモ不<sup>レ</sup>乞<sup>メ</sup>、  
勝負<sup>ゾ</sup>。大乘云、万般巧說<sup>ハ</sup>。争如<sup>レ</sup>實<sup>ハ</sup>、ト云義<sup>ハ</sup>。

## 〔劫外錄大乘開山徹通和尚之註〕

六盆<sup>ハ</sup>六根<sup>ハ</sup>。十語<sup>ハ</sup>十如是<sup>・</sup>十法界<sup>ハ</sup>。十戒五具法門<sup>ハ</sup>。釈迦尊ノ所說<sup>ハ</sup>。九中<sup>ハ</sup>言語分明義<sup>ハ</sup> (ナシ)<sup>ハ</sup>。不如一默<sup>ハ</sup>維<sup>(摩)</sup>廣<sup>ハ</sup>一默<sup>ハ</sup>。百般巧說爭如實云義<sup>ハ</sup> (實似古云也)<sup>ハ</sup>。 (蓋是俗典語也。)

(32) 上堂、僧問、古<sup>一</sup>路不<sup>レ</sup>逢<sup>レ</sup>人<sup>ハ</sup>。師云、相隨來也。<sup>一問ハ、向去ハ。</sup>答<sup>ハ</sup>却來ナリ。僧云、  
恁<sup>(48)</sup>則<sup>ハ</sup>万<sup>一</sup>像光<sup>ハ</sup>中<sup>ニ</sup>、全身出<sup>レ</sup>沒<sup>ス</sup>。トハ、サテハ、能ク本位ヲ極<sup>レ</sup>バ、又今時<sup>ヘ</sup>出ルヨ。師云、猶<sup>ハ</sup>是往<sup>一</sup>來人<sup>ハ</sup>。トハ、  
ノケタゾ。僧云、如<sup>ハ</sup>〔何是〕レ非<sup>一</sup>往來人。師云、古<sup>一</sup>路覓<sup>ハ</sup>不得。向去ソ夏モ無ケレバ、却來モセヌゾ。

(47) 大本「不逢時」ニ作ル

(48) 寛本「凭<sup>カ</sup>」ニ作ル、以下同ジ

師乃云、一牛飲水密混溪雲。

一牛トハ、主人公也。注脚ノ說法也。一問ハ、向去也。故ニ、答ハ、却來也。向上ニ、徹證也。去社、早出ハ也。

此

ガ、無端ケレバ、直ニ向上ニ徹證也。去社、早出ハ也。五馬不レ嘶暗彰レ風骨。五馬ハ、現成分レ本衲僧ト成レバ、六根ノ受用、無心ニメ、皆本分也。去社、密処ルハ、<sup>(今カ)</sup>ニ混レ雲、現成ノ上ニ、波ノ風流アリ。却來モ、不レ墮分時也。不レ落レ曉機即且置。太綿密志一現作广生回互。

ハ、<sup>(49)</sup>今時色ヲ不レ妨置テ、回互ヲ云ナリ。良久云、白頭蚕

一

婦織、歷々夜鳴梭。

白頭ノ蚕婦トハ、年ヨリタル女人ノ、機ヲ織タ用處也。

功也。夜ハ、暗也。位也。此兩位ヲ、左右ヘ分テ置テ、梭ヲ左ヨリ右ヘ回シ、右ヨリ左ヘ透メ、回互ゾ。良久ノ正当ヲ、如此見ベシ。又、蚕婦ト云ヨリ、白頭ヲ綿帽共云。

婦織、歷々夜鳴梭。<sup>(出)</sup>白頭ノ蚕婦トハ、年ヨリタル女人ノ、機ヲ織タ用處也。功也。夜ハ、暗也。位也。此兩位ヲ、左右ヘ分テ置テ、梭ヲ左ヨリ右ヘ回シ、右ヨリ左ヘ透メ、回互ゾ。良久ノ正当ヲ、如此見ベシ。又、蚕婦ト云ヨリ、白頭ヲ綿帽共云。

（49）面本「蚕」ヲ「蠶」ニ作ル

〔徹通和尚之註〕

古路不逢時ハ自位<sup>(出)</sup>色來也。非往来人ハ那人也。一牛ハ主人也。五馬ハ五根也。回互ハ不可見回互也。

（33）上堂、機回明位、妙尽転身。

トハ、今時ノ機ヲ回メ、本位ニ徹證メ。本位ノ妙ヲ尽トハ、極メナガラ、転身トハ、今時ヲ帶也。爰

ヲ、位裡ノ転側共云タゾ。夜一夢、青山、滿一船白月。青山ハ位、白月ハ功也。功位共ニ夢也。分ノ消息ハ、位裡ノ文章也。

彼ノ中ニ子夜雲収碧溪、

正位ヨ。

雲ワ、功也。収レバ、キラリツト晴テ、白月ナゾ。中秋露浮也。

混レ銀河。中秋モ、子夜ト、同意也。似ヌ処ヲ、取タゾ。露ハ、<sup>(タガル)</sup>花レ芦深一処驀相逢、談一咲飲一

茶無レ処レ避。

功ト相<sup>(摩)</sup>逢タゾ。談咲飲茶ハ、日用更<sup>(16ウ)</sup>一般ニ行履メゾ。正恁廣<sup>(ノ)</sup>知<sup>(テ)</sup>

有レ一人不<sup>(テ)</sup>合<sup>(タセ)</sup>伴。透過メ、功ヲ轉メ、位ニ付テ、位ヲ轉側メ、功<sup>(ノ)</sup>處ニ行履スルヲ、佛祖位中ヲ<sup>(テ)</sup>人不<sup>(ル)</sup>合<sup>(タセ)</sup>伴。透過メ、芦花裡ノ栖<sup>(タガル)</sup>イト云タゾ。漁人・山翁ト一般タゾ。去又、真実ノ漁夫

・樸夫ハ、功ヲモ位ヲモ、経タ夏ハ無ゾ。  
同坐同行メモ、別タゾ。不レ合伴一人ヤ。

## 〔徹通和尚之註〕

機廻明位、妙尽転身ハ借功明位、借。明位功也。（借位明功也。）▽。有一人不合伴ハ雲外千峯上、更有灵松帶露寒（ト一般）▽。

(34) 上堂云、靈鷲深一機、少林密一旨。仏出世メ、四十九年說法ノ深機ハ、出世已前ノ理ヨ。祖師西來メ、九年面壁ノ深旨ハ、西來ノ已前ノ理ヲ露ゾ。山岳高一低而共一唱<sup>モニ</sup><sub>(51)</sub>、水雲去一住而自聞。サテ、仏祖ノ深機ハ、密旨ト云ハ、可レ高山ハ高ク、可レ深海ハ深、可レ流河ハ流、可レ消雲ハ消ゾ。皆是仏祖未生ノ、<sup>劫已</sup>前ノ法輪ノ說聴ヨ。得レ之者頭一角強<sup>テシ</sup>生、失レ之者功勲徒余<sup>タリ</sup>。角トハ、功位・偏正ノアツカイ。強テトハ、無用ノ義也。失トハ、迷人ハ、又タ<sup>(52)</sup>莫レ求レ悟、本無レ迷。日出<sup>ヨリ</sup>東方、仏祖出<sup>興</sup>メ、功勲ヲ立<sup>メ</sup>モ、曲ナナイ。徒余ハ、イタヅラ。莫レ求レ悟、本無レ迷。日出<sup>ヨリ</sup>東方、平懷常美也。了々常知也。爰ガ、雖然恁<sup>(歎ト)</sup>广、且道、拋ニケ什<sup>(53)ノ(箇)</sup>ニカ夜沉<sup>レ</sup>西。仏祖未生ノ法輪妙訣也。爰ガ、雖然恁<sup>(歎ト)</sup>广、且道、拋ニケ什<sup>(53)ノ(箇)</sup>ニカ

(51) 寛本「唱」ヲ「喝」ニ作ル

(52) 寛本・面本「所以道、莫求悟」ニ作ル

(53) 面本「拋」ヲ「據ニ作ル」

澄レ九鼎、流動百花新。不レ勞トハ、其儘デ、九鼎トハ、九鼎ノ夏也。四百劫ニ不レ分已前<sup>(17オ)</sup>生ノ時代ヲ云也。是ハ、夏ノ代也。仏ハ、殷ノ代過テ、周ノ代ニ成テ、周ノ昭王ノ時ニ當テ、誕生有ツタゾ。爰デミタ花コソ、新タナレ。此ヲ、劫外ノ春光ト云タゾ。祖師禪トハ、爰ヲ云也。

## 〔徹通和尚之註〕

靈鷲深機ハ仏未叟世前也。少林密旨ハ祖師未（未ナシ）西來前也。流動百花新ハ是便（即）妙訣也。

(35) 上堂云、離ニ心意識ヲ、達レ本忘レ情、千聖頂ト顛撥ト開、万像根源徹透。修行

ハ、心意識ヲ離レ、忘レ情<sup>謂ヲ</sup>専トメゾ。此時、本心タゾ。本性<sup>(意カ)</sup>當<sup>テニ</sup>明<sup>ニ</sup>隱<sup>ニ</sup>喫<sup>ヲ</sup>、入<sup>レ</sup>戸<sup>ニ</sup>忘<sup>レ</sup>歸<sup>ヲ</sup>。

當<sup>レ</sup>明トハ、目前<sup>ハ</sup>。隱<sup>レ</sup>喫トハ、分別ノ根源トモ、此心性ヲ云タゾ。

戸トハ、六戸<sup>ハ</sup>。入<sup>レ</sup>戸忘<sup>レ</sup>坂トハ、分別ノ相無キナリ。離ニ心意識<sup>ヤウタゾ</sup>。野老<sup>(54)</sup>正恁<sup>テ</sup>广<sup>ニ</sup>聴<sup>ヲ</sup>、还有<sup>ニ</sup>知<sup>レ</sup>掌<sup>ヲ</sup>。トハ、能ク心意識ヲ離レ、忘レ情レバ、無心ノ道人ト成ゾ。此ガ、野老<sup>(54)</sup>正恁<sup>テ</sup>广<sup>ニ</sup>聴<sup>ヲ</sup>、還有<sup>ニ</sup>知<sup>レ</sup>掌<sup>ヲ</sup>。ノ肚裡ト一般タゾ。石人ト野老ハ、一般<sup>ハ</sup>。陰陽ノ機ヲ受ヌ義ナリ。野老<sup>謳<sup>ヲ</sup>歌<sup>ヲ</sup></sup>、石人撫<sup>ト</sup>落<sup>ハ</sup>處<sup>ヲ</sup>底<sup>ニ</sup>廣<sup>ニ</sup>。良久云、雪山香草秀<sup>ヲ</sup>、不<sup>レ</sup>見<sup>ニ</sup>白牛蹤<sup>ヲ</sup>。雪山ノ香草トハ、肥膩少<sup>ニ</sup>。是<sup>メ</sup>、白牛ト成ゾ。飽<sup>レ</sup>肥膩ケバ、雪山ニ不<sup>レ</sup>留<sup>メ</sup>。故ニ不<sup>見<sup>レ</sup></sup>蹤<sup>ハ</sup>。此時、只<sup>ノ</sup>野老<sup>ハ</sup>。

〔徹通和尚之註〕

離心意識<sup>ハ</sup>那邊<sup>マ</sup>。雪山荒草秀<sup>ハ</sup>草有牛未喫<sup>ハ</sup>。却<sup>(都)</sup>絕蹤跡<sup>マ</sup>。

(36) 上堂云、百億毛頭、花<sup>ノ</sup>開不<sup>レ</sup>犯<sup>レ</sup>春風。トハ、十分ノ春光ニメ、万木ニ花開<sup>(55)</sup>ニ<sup>テ</sup>芳<sup>ヲ</sup>、全彰<sup>ス</sup>浩<sup>ス</sup>意。極隈ノ雪裡ニ、又彰<sup>レ</sup>春光ト<sup>ヲ</sup>云。雲<sup>ノ</sup>凝谷<sup>ノ</sup>曉<sup>ニ</sup>、滴<sup>レ</sup>水<sup>ノ</sup>生<sup>ニ</sup>。雲<sup>ノ</sup>凝<sup>ハ</sup>、陽<sup>ヲ</sup>隈<sup>レ</sup>バ、隈<sup>ガ</sup>陽<sup>ト</sup>成タゾ。滴<sup>水</sup>ハ、陽<sup>活<sup>ト</sup></sup>計現<sup>ト</sup>成<sup>シ</sup>、憑<sup>ク</sup>誰受用<sup>ト</sup>。トハ、隈<sup>ヲ</sup>陽<sup>ト</sup>成<sup>シ</sup>、陽<sup>ヲ</sup>隈<sup>ト</sup>唱<sup>ル</sup>ベ。永生レバ、又隈<sup>ト</sup>成タゾ。活<sup>ト</sup>計現<sup>ト</sup>成<sup>シ</sup>、憑<sup>ク</sup>誰受用<sup>ト</sup>。トハ、皆<sup>ト</sup>是衲僧現成ノ活計<sup>ハ</sup>。受用<sup>ト</sup>底<sup>ノ</sup>落<sup>ハ</sup>、良久云、頭上<sup>ノ</sup>青<sup>ノ</sup>灰<sup>ノ</sup>三五斗、明<sup>ニ</sup>々<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>落<sup>ニ</sup>曉來機<sup>ヲ</sup>。頭上<sup>ノ</sup>青<sup>ノ</sup>灰<sup>ノ</sup>ト<sup>ハ</sup>、一向<sup>ニ</sup>引<sup>ツ</sup>ク着<sup>ハ</sup>、良久云、頭上<sup>ノ</sup>青<sup>ノ</sup>灰<sup>ノ</sup>三五斗、明<sup>ニ</sup>々<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>落<sup>ニ</sup>曉來機<sup>ヲ</sup>。頭上<sup>ノ</sup>青<sup>ノ</sup>灰<sup>ノ</sup>ト<sup>ハ</sup>、一向<sup>ニ</sup>引<sup>ツ</sup>ク

仏祖未生ノ時ノ人ヨ。サテコソ、明々トハ、<sup>明々トハ、</sup>今時目前ナレ共、曉來機<sup>ヲ</sup>落ヌゾ。曉來トハ、大陽門下、仏祖出興<sup>ヲ</sup>云。

(54) 寛本・面本「正当凭鑑」ニ作ル

(55) 寛本・面本「三冬雪裡」ニ作ル

〔徹通和尚之註〕

百億毛頭花開△処々分身而不犯鋒△。頭上青灰三五斗△万法息△休(休息)而千仏不知△。

(37) 上堂云、祗恁廣休尋覓、見成堂々忘得失。  
尋覓ノ得ルトハ、悟ニ。失トハ、迷ニ。迷悟得失ヲ忘レバ、見成堂

タトハ、今時ナレ共、久假使心通ルモ。  
遠実成タゾ。去社、一、歴劫何曾異テ。今日ニ。  
大乗云、觀彼久遠、猶如今日。呵。

(56) 寛本・面本「大笑」ニ作ル

々大咲云、薦此端的、久遠。聖僧堂裡坐、金毘門外立。<sup>ニツ</sup>堂裡ハ、久遠、門外ハ、今時ノ文章  
今時隔ナイヅ。坐モ立タモ、共ニ知子バ、一得失ニ、忘<sup>レ</sup>廣長舌相輝<sup>(57)ク</sup>乾坤、半夜烏<sup>テ</sup>飛白<sup>シモ</sup>如<sup>レ</sup>漆。堂裡・門外ヲ、乾坤ニ合テ、沙汰  
般<sup>ニ</sup>ノ、忘<sup>レ</sup>廣長舌相輝<sup>(57)ク</sup>乾坤、半夜烏<sup>テ</sup>飛白<sup>シモ</sup>如<sup>レ</sup>漆。堂裡・門外ヲ、乾坤ニ合テ、沙汰

57

在。烏白レ如漆(18オ)、黒テモ無ク、白デモナイゾ。

〔徹通和尚之註〕

成現当々忘得失△得失△▽。歴劫何曾異今日△観彼久遠、猶如今日、一句△▽。半夜△烏飛白如漆△其間、却有眼在、黒一片時。難分○黑白一字、極難見△。白者、不犯意也（看△不犯意也）△▽。

(38) 上堂、僧問、皮膚脱落尽、唯有三真。未審、其中更作广生。  
八、皮膚脫落向去

ベ。真寒ハ、骨ズイ師云、戸掩<sup>テ</sup>春風、不停<sup>レ</sup>宿客。トハ、門戸ヲ閉テ、客ヲ不<sup>レ</sup>入<sup>ベ</sup>。客ナレバ、向上<sup>ヘ</sup>。

(38) 上堂、僧問、皮<sub>一</sub>膚脱落尽<sub>タツ</sub>、唯有ニ真実<sub>ハミ</sub>。未<sub>レ</sub>審<sub>ス</sub>、其中更作广生。ハ、向去<sub>ス</sub>。皮膚脱落<sub>ス</sub>。  
ベ。真実<sub>ハ</sub>、骨ズイ<sub>テ</sub>。ナレバ、向上<sub>ス</sub>。師云、戸掩<sub>テ</sub>春<sub>一</sub>風<sub>ニ</sub>、不<sub>レ</sub>停<sub>レ</sub>宿<sub>一</sub>客<sub>ヲ</sub>。トハ、門戸ヲ閉テ、客ヲ不<sub>レ</sub>入<sub>ス</sub>。客<sub>ヲ</sub>皮肉ヲ全提スルヲ云タゾ。僧云、恁<sub>一</sub>廣<sub>テ</sub>則<sub>シ</sub>、綠<sub>一</sub>岩<sub>ニ</sub>雲<sub>一</sub>抱<sub>テ</sub>廻<sub>ス</sub>、幽<sub>一</sub>鮮翠<sub>リ</sub>成<sub>レ</sub>堆<sub>ヲ</sub>。トハ、人ノ難及<sub>ス</sub>處カナ、ト<sub>ス</sub>。大乘云、功<sub>ノ</sub>渢<sub>ス</sub>。白雲ハ、深而更深處<sub>ス</sub>。去社<sub>ス</sub>。師<sub>云</sub>、猶<sub>レ</sub>是半<sub>一</sub>超之句。超宗<sub>超</sub>格<sub>ワ</sub>、向上<sub>ス</sub>。半<sub>レ</sub>僧擬<sub>レ</sub>進<sub>一</sub>語<sub>ヲ</sub>。師喝云、猶嫌<sub>レ</sub>少<sub>カクヲリ</sub>在<sub>ス</sub>。

(58) 大本・面本「幽辭」ニ作ル  
(59) 大本「成」ヲ「作」ニ作ル  
(60) 寛本・面本「師云猶是半超三句」  
僧擇進語ノ十二字ナシ

喝トハ、キメタ真ベ。棒喝ノ々ニハアラ師乃云、一一念未生、眩、万里無寸草。トハ、唯一真実ズ。向上ノ體ニ云真ガアルカ、トナリ。師乃云、一念未生、眩、万里無寸草。トハ、唯一真実ズ。又ハ、拔ナリ。此时、通身紅爛處、偏界不<sub>レ</sub>曾<sub>レ</sub>藏。トハ、體儀鳥一道忘<sub>レ</sub>依、雲一蹤<sub>レ</sub>理<sub>マ</sub>。草ハ、念出<sub>レ</sub>。有<sub>レ</sub>異<sub>ル</sub>。通身ノ理<sub>マ</sub>。異ハ、ズイ也。云蹤トハ、鳥道ヲ云<sub>マ</sub>。此ハ、直得<sub>レ</sub>恁<sub>モ</sub>广<sub>ル</sub>、猶<sub>レ</sub>是究<sub>レ</sub>妙失<sub>レ</sub>宗。トハ、妙ト云イ、窮失<sub>レ</sub>ト云タゾ。所以道、任<sub>サ</sub>你天下人樂忻<sub>タ</sub>、獨<sub>ヒトリ</sub>我不<sub>レ</sub>肯。任<sub>ト</sub>、天下人樂忻<sub>タ</sub>ハ、妙ヲ宗ヲモ不<sub>レ</sub>犯<sub>レ</sub>取<sub>マ</sub>。且<sub>レ</sub>道、拋ニケ<sub>ル</sub>(箇)<sub>18ウ</sub>甚<sub>モ</sub>广<sub>ル</sub>。良久云、魚行暗動<sub>ケ<sub>61</sub>ニス</sub>沙、終不<sub>レ</sub>妙<sub>ヲ</sub>。真歇ハ、一人不<sub>レ</sub>肯トハ、且<sub>レ</sub>道、拋ニケ<sub>ル</sub>(箇)<sub>18ウ</sub>甚<sub>モ</sub>广<sub>ル</sub>。良久云、魚行暗動<sub>ケ<sub>61</sub>ニス</sub>沙、終不<sub>レ</sub>犯<sub>レ</sub>清波。魚モ行ケバ、動<sub>レ</sub>沙ゾトハ、終ニ不<sub>レ</sub>犯<sub>レ</sub>波<sub>マ</sub>。大犯<sub>レ</sub>清波。乘云、不犯通<sub>マ</sub>。全體不可<sub>レ</sub>見<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>犯<sub>レ</sub>ト<sub>マ</sub>。大

### 〔徹通和尚之註〕

(39) 上堂云、嘿<sub>モク</sub>耀堂々、現成密々。通途隱的、回互難<sub>シ</sub>分<sub>マ</sub>。トハ、坐禪ノ正當皮膚脱落<sub>ハ</sub>向去<sub>マ</sub>。唯有一真實<sub>ハ</sub>向上<sub>マ</sub>。綠岩雲抱處、函蘇<sub>マ</sub>翠作堆<sub>ハ</sub>功淵源(淵底)、白雲深而更深<sub>マ</sub>。魚行沙暗動、終不犯清波<sub>ハ</sub>是句、不犯通<sub>マ</sub> (不犯通句也)。全體不可<sub>レ</sub>見<sub>レ</sub>不犯<sub>マ</sub>。

一般ニメ、不<sub>レ</sub>墮<sub>レ</sub>兩位ニ<sub>マ</sub>。是<sub>ハ</sub>學人分上ニハ非<sub>マ</sub>。去社、是<sub>ハ</sub>家<sub>ニ</sub>風孤寂妙明前、活計荒虛<sub>タリ</sub>玄路外。レ共、妙前ノ家風<sub>マ</sub>。孤寂<sub>ハ</sub>。去又、活計荒虛<sub>タリ</sub>玄路外。レ共、妙前ノ家風<sub>マ</sub>。孤寂<sub>ハ</sub>。去又、活計荒虛<sub>タリ</sub>玄路外。若<sub>ハ</sub>能撒<sub>レ</sub>手、便恁<sub>モ</sub>广<sub>ル</sub>去。押放ガ、懸崖万仞ノ向上ニ至リ、那辺ニ撒<sub>テ</sub>手タゾ。大死<sub>モ</sub>絶<sub>モ</sub>後再<sub>モ</sub>甦<sub>ミガヘリ</sub>、横<sub>レ</sub>身恁<sub>モ</sub>广<sub>ル</sub>來。本位ニ至得<sub>テ</sub>、又世界へ却来スルト<sub>ハ</sub>、横<sub>レ</sub>身ト<sub>ハ</sub>、云タゾ。去又、當頭底ノ人<sub>マ</sub>。此ヨリ、大死<sub>モ</sub>絶<sub>モ</sub>後再<sub>モ</sub>甦<sub>ミガヘリ</sub>、横<sub>レ</sub>身恁<sub>モ</sub>广<sub>ル</sub>來。本位ニ至得<sub>テ</sub>、又世界へ却来シ、功不<sub>レ</sub>犯、始解<sub>ニ</sub>隨<sub>レ</sub>變任<sub>レ</sub>化与<sub>レ</sub>物推<sub>レ</sub>移<sub>レ</sub>。位偏正ノ沙汰<sub>迄</sub>タゾ。畢竟<sub>ハ</sub>、當頭ヲ不<sub>レ</sub>犯用處<sub>マ</sub>。不<sub>レ</sub>犯、始解<sub>ニ</sub>隨<sub>レ</sub>變任<sub>レ</sub>化与<sub>レ</sub>物推<sub>レ</sub>移<sub>レ</sub>。位偏正ノ沙汰<sub>迄</sub>タゾ。畢竟<sub>ハ</sub>、當頭ヲ不<sub>レ</sub>犯用處<sub>マ</sub>。其<sub>ハ</sub>或未<sub>レ</sub>然、雲<sub>ニ</sub>歲<sub>シ</sub>無<sub>レ</sub>影樹<sub>ヲ</sub>、丹几<sub>鳳</sub>不<sub>レ</sub>栖<sub>レ</sub>梧。雲トハ、功位<sub>ニ</sub>偏正ノ洞上ノ唱ヘヲ云<sub>マ</sub>。是ヲ云<sub>タ</sub>

(62) 大本・面本「嘿」ヲ「默」ニ作ル

(61) 大本・面本「沙暗動」ニ作ル

為ンガ為也。當頭不犯ト云モ、此更ヨ。梧樹ヲコソ、此几ノ栖カナレ共、不レ栖トハ、尊貴ヲ不レ立ノ義也。五位ニ合テモ、可レ見ナリ。(19才)

## 〔徹通和尚之註〕

默耀△体△。現成△用△。丹几△不栖梧△一氣置大極前也△。

(40) 上堂云、鶴夢無レ依、寒巢臥△月。<sup>(鳳)</sup>千年ノ鶴、月巢ニトツクト宿ソゾ。無レ依トハ、何ガ、雲容不レ掛、野渡澄△明。<sup>(64)</sup>共功、不得色ノ処也。君臣功<sup>(ママシ)</sup>、位<sup>(ヲ)</sup>轉須<sup>(ル)</sup>、合道ニメ、功位無レ阻ゾ。知向背。此一位ハ、功デ居テ、功ヲ忘シ、位デ居テ、位ヲ転ソゾ。玄微ハ、位△。不レ守、轉ソトヨ。向背ハ、向去・却来タゾ。所以道、凋林<sup>(リ)</sup>迥秀、

トハ、背時ハ、却來バ。大乘ハ、被仰タゾ。冥棹密<sup>(シ)</sup>移、巢ヨリ出ル文章也。冥棹ハ、野渡ヨリ出タ文章也。一句截流、如<sup>(シ)</sup>何弁<sup>(シ)</sup>異。截<sup>(シ)</sup>流(流)、一句トハ、不<sup>(シ)</sup>落功位處ヲ、異還知<sup>(シ)</sup>端<sup>(シ)</sup>的<sup>(シ)</sup>广。白牛耕尽<sup>(シ)</sup>、功<sup>(シ)</sup>處<sup>(シ)</sup>。耕<sup>(シ)</sup>盡ハ、雪ノ沙休モ、白牛ノサタモ無ゾ。爰寒岩雪、禽鳥不<sup>(シ)</sup>鳴天地春。雪ハ、功<sup>(シ)</sup>處<sup>(シ)</sup>。耕<sup>(シ)</sup>盡ハ、雪ノ沙休モ、白牛ノサタモ無ゾ。爰地春<sup>(シ)</sup>曾不<sup>(シ)</sup>落<sup>(シ)</sup>今時ノ作用<sup>(シ)</sup>ナリ。

## 〔徹通和尚之註〕

鶴夢無依、寒巢臥月△功主賓也△。雲容不掛夜澄明△位行、履△。凋林迥秀△背△。(背之)時却來△。冥棹密移△向△。(向之)時去△向也△。白牛耕尽寒岩雪△轉功就位△。禽鳥不鳴天地春△曾不<sup>(シ)</sup>落<sup>(シ)</sup>今時ノ作用<sup>(シ)</sup>ナリ。

(41) 上堂云、運歩不當機、ケ中無肯路。運一機トハ、洞上ノ真機ハ、絶外明密浩難齊。未前超仏祖。明トモ密トモ、浩ノ難齊トハ、(19ウ)比倫シ難ゾ。仏祖未及尽回途恁廣來。トハ、及尽ノ處ハ、真実ノ本イ。撒手相逢無回互。向去底ノ人人、向上ニ撒レ逢タゾ。所以道、一切処行履、一切処不収、一切処現成、一切処莫覩。着々出身ハ。不得ノ受用ハ。山僧今日也太無端。<sup>(65)タタ</sup>大乘云、言端語端、是ハ、始終共ニ、理ヲ付ベカラズト。

〔徹通和尚之註〕  
運歩不当機。△移歩於位也▽。山僧今日太無端△言端語端也▽。

(42) 上堂云、旨外明宗、玄中弁的。宗トハ、心ヲ宗トスルゾ。宗ヲバ不可得ト明タゾ。弁シヤウ已前ノ妙訣。古帆不掛、トハ、達廣ノ西來已前ヲ云タゾ。夫ヲバ何ト弁ソゾ。ナレバ、不犯ガ。古帆不掛、トハ、玄中ノ玄ヲ云タゾ。モハヤ洞水逆流ヨ。單直妙黃芦渡口、西來メ、乘芦渡タ。奏陽春、偃月城頭モ、少林ニアル境致ハ。吹呂角。訣デハ無ゾ。黃芦渡口、渡ヲ云。是ハ西來已後ノ祖師禪ノ唱ヘ起シヤウ、宗ノ曲調也。豈止異苗翻茂。トハ、少林ノ蓀須レ知別有<sup>爰ノ注カ、又末ヲ</sup>円音。別ニ円音トハ、唱ヘハ、曲調不圓也。松風サワ、渾水ハサツ々コソ、真ノ□ト見□更休爛炒<sup>20オ</sup>浮溫。トハ、浮溫ヲ煎モノ、用處ニハ立ヌゾ。劣而無功夏ヨ。去又便請、乘<sup>ト</sup>耽撒<sup>ト</sup>手。豈一円音、爰ニタンジヤク紙ノ下ニ、如此アリ。

(65) 大本ニ「也」ナシ

トハ、六律ハ、陽也。十二律ヲ、十二月ニ合ル也。冬至ヨリ夏迄ハ、律也。夏至ヨリ冬迄ハ、呂也。トハ呂律相應メ、奏シ調ルガ、不犯ノ旨、不忘義也。且道、落ヨ在什广人分上ニカ。良久云、錦繡溪邊去、新豊路上分。<sup>(66)</sup> 路<sup>〔溪邊〕</sup>去トハ、大乘云、歩々踏花錦曲ヲ來バ、云々。功位偏正ヲ以テ、交互ノ唱ルワ、錦ヲ織ル梭ヒノ如ク、繡スル針鋒ノ如クナゾ。是ガ、洞上ノ路スジ也。分トハ、偏正功位ト分タゾ。

## 〔徹通和尚之註〕

旨外明宗、玄中弁端的△劫外春、不在陰陽也△。陽春△曲名也△。画角△曲名也△。錦繡溪邊去△歩々踏（踏著）花錦路也△。新豊已分△却来句也。雪曲吹來也△。

(43) 上堂云、風暖レ寒堤春回草綠、雲迷<sup>〔テ〕</sup>古路家破人亡。上ノ句ハ、位ヨリ功ハ、功リ位<sup>〔ル〕</sup>。大陽門下覓無<sup>〔ル〕</sup>蹤、功<sup>〔レ〕</sup>處ニ迹ヲ<sup>〔ヲ〕</sup>。枯木岩前花自咲。トハ、劫外<sup>〔ノ〕</sup>春光也。直得、觸體吟<sup>〔ル〕</sup>處、韵<sup>〔ト〕</sup>々難<sup>〔シ〕</sup>齊、衲僧ノ日用ハ、談咲<sup>〔68〕</sup>雲月混<sup>〔ル〕</sup>眩、功<sup>〔ト〕</sup>々不共。共功也。蜀婁ノ吟也。韵々難齊、功々不共ナリ。諸人者到<sup>〔テ〕</sup>者裡、且作<sup>〔カ〕</sup>廣生<sup>〔70〕</sup>撒手。良久云、灵絲動<sup>〔ル〕</sup>處金鈎密、不<sup>〔レ〕</sup>触<sup>〔ニ〕</sup>破<sup>〔ル〕</sup>瀾<sup>〔20〕</sup>暗裡收<sup>〔ル〕</sup>。波瀾ハ、功處也。不<sup>〔レ〕</sup>觸トハ、位裡<sup>〔ヘ〕</sup>轉ル也。暗裡ハ、金鱗ノ栖カ位ノ、偏ノ、正ノ、ト云唱<sup>〔ハ〕</sup>、灵絲金鈎也。發端ニ、寒堤ト云句ヨリ、結句ハ出ルナリ。

## 〔徹通和尚之註〕

風暖寒提、春回少綠△古木回暖花將咲、寒提功也。転位就功時、風正暖也△。灵絲動處金鈎密。△転自己行履、到那邊也△。不触波瀾、暗裡收△波瀾是功也。暗裡是那邊也△

(66) 大本「路上分」ヲ「已分」ニ作ル

寛本・面本「韻韻」ニ作ル  
寛本・面本「雪月」ニ作ル  
寛本・面本「諸仁者」ニ作ル  
寛本・面本「撒」ヲ「措」ニ作ル  
大本・面本「金鈎」ニ作ル

71 70 69 68 67

(44) 上堂云、移<sub>ニ</sub>身<sub>ニ</sub>密<sub>ニ</sub>処<sub>ニ</sub>、意句難<sub>レ</sub>通。大乗云、木人夜半穿<sub>レ</sub>履去。意驀<sub>ニ</sub>路分<sub>ニ</sub>眩<sub>レ</sub>、風<sub>ニ</sub>雲<sub>ニ</sub>逍<sub>ニ</sub>秀<sub>レ</sub>。大乘云、石女〔天明戴帽〕戸<sub>ニ</sub>外野<sub>ニ</sub>花開似<sub>レ</sub>錦、造化不<sub>レ</sub>知。戸外ナ程ニ、目前ノ景<sub>ニ</sub>無心<sub>ヲ</sub>云。岩前芳<sub>ニ</sub>草軟<sub>シ</sub>如<sub>レ</sub>綿、隨<sub>テ</sub>根自<sub>ニ</sub>發<sub>ス</sub>。前句ト同<sub>ニ</sub>豈<sub>レ</sub>在<sub>ニ</sub>忘<sub>レ</sub>機息<sub>ヲ</sub>見。忘シ息ルトハ、ナリ。直指<sub>ヲ</sub>不<sub>レ</sub>借義<sub>ヘ</sub>。断<sub>ニ</sub>臂安<sub>ニ</sub>心、大<sub>ニ</sub>施<sub>ニ</sub>門開<sub>テ</sub>、更無<sub>レ</sub>辜負。不可得ノ肚裡ニ、阻ハ無<sub>ゾ</sub>。雖然恁<sub>ヘ</sub>。春力不到處、空山中夜泉。トハ、仏祖未空劫ノ前ヲ云。大陽門下へ出タトハ、不可<sub>レ</sub>見。

(72) 面本「綿」ヲ「緜」ニ作ル

〔徹通和尚之註〕

移身密處、意句難通。木人夜半穿靴去也。驀路分時、風雲迥秀。石女天明戴帽坂。春力不到處、△正一辺時。空山中夜泉△曾無邊。(偏)也。

(45) 上堂云、純一清絶一点、似二鏡長明一。似トハ、全ク鏡ノ夏ニハアラス。肚裡ニ、一貞ノ軌一則無ヲ云タゾ。豈不失レ虚、

トハ、對レ色暝ス時モ、暝ゾト知ラ子バ、万像躰妙。此時万象、(21ウ)移タレ共、被レ暝タト  
虚迄ヨ。サテコソ、長ニ明テハアレ。知ラ子バ、影像ニ落ヌゾ。サテ妙ヨ。細  
中之細、雪尽氷消。雪氷ハ、陰ノ形也。極陰ノ地ハ、陰  
ヲ不レ妨、此兩位ヲ云イ分。諸仁者还知レ有不鑑照底广。トハ、畢竟ハ、暝ゾト不知、被  
テ、一致ノ行履ヲ令見也。照タト知ラヌ行履ヲ乞タゾ。前  
良久云、爰ガ空一已<sup>(73)</sup>椿<sup>〔劫〕</sup>花爛熳、劫外ノ<sup>(74)</sup>青草渡頭空。今時ノ春ナラバ、渡頭ニ青山生ス  
乗云、曾テ不犯<sup>レ</sup>  
春風ヲナリ。

(73) 寛本・面本「枯椿」ニ、大本「古春」ニ作ル

(74) 大本「青山」ニ作ル

## 〔徹通和尚之註〕

純清絶点△自己△。功就之功△一色転時、却同一也△。有不鑑照底△向上△。古春花爛熳、青山渡頭空△曾不犯春水（春風）也△。

(46) 上堂云、世尊有<sup>レ</sup>密語、古<sup>レ</sup>渡春<sup>リ</sup>残。古<sup>レ</sup>語トハ、不傳ナリ。爰ガ、劫外ノ春ルナリ。迦葉不<sup>レ</sup>覆藏、落<sup>レ</sup>花流<sup>レ</sup>水。微笑スルガ、古渡ニ残タ春ヲ流出ソ、アラワシヤウタグ。如此見レバ、末派ノ様ナレ共、本源ヨ。見<sup>レ</sup>聞覺<sup>レ</sup>知<sup>レ</sup>絕、四維上下通。<sup>ス</sup>去又、傳<sup>レ</sup>附底ワ、何ゾ。見聞覺知ニ落ヌ物ヨ。秘藏ノハ、置ヌグ。四維上下ニ塞タ物タグ。玉<sup>レ</sup>鳳舞<sup>レ</sup>中霄、金<sup>レ</sup>輪舒<sup>レ</sup>半夜。玉金リント云モ、此不思義、不可説、不傳底ノ物タグ。中霧・半夜ト云ニ可<sup>レ</sup>付<sup>レ</sup>眼。正恁<sup>カ</sup>广<sup>カ</sup>眨、作<sup>カ</sup>广生是不<sup>レ</sup>驚<sup>ル</sup>異。(21ウ)トハ、此落着ノ一物タグ。此珠ハ、知ラヌ時、貴良久云、海<sup>レ</sup>底驪<sup>レ</sup>珠貴、光<sup>レ</sup>分宇宙迷。<sup>ニ</sup>(75)大乘云、心王不<sup>レ</sup>動八方ニ通。此珠ハ、知レバ、光輝周<sup>レ</sup>。知レバ、光ハ滅ル<sup>レ</sup>。サテコソ、驚異セヌ处ヲ、乞タグ。

## 〔徹通和尚之註〕

世尊有密語△二門ヒ月ハ三△。古渡春残△一筆向下也△。迦葉不覆藏△解接無根樹、能排海底灯△。落花流水△一夜落花、雨滿城流水香、世尊无密語、香争得迦葉影（彰）、古渡花不落、流水争香、密語依覆藏、知春残、依流水香彰ナリ△。海底瓊珠貴△心王不動也△。光分宇宙迷△八方通也△。

(47) 上堂云、不变異<sup>レ</sup>処、未<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>安身。功処ハ、變易スルゾ。不变易ハ、無間<sup>レ</sup>断<sup>レ</sup>眨、更<sup>ニ</sup>須<sup>レ</sup>放<sup>レ</sup>下。無間<sup>レ</sup>断<sup>レ</sup>時トハ、牛頭按尾上タ時ヨ。爰<sup>ニ</sup>直得<sup>ニ</sup>羚<sup>レ</sup>羊掛<sup>レ</sup>角氣<sup>レ</sup>息都<sup>テ</sup>無<sup>一</sup>、猶滯<sup>テ</sup>洞上ノ極則ナレ共、放下セヨト<sup>レ</sup>。

化城未レ到レ宝所。ト削タゾ。羚羊掛角トハ、没蹤且道、混不得、類不レ斎、合作

广生。混ト云イ、類ト云ハ、功位・玉壺霜漏永、天臥翠峯高。玉壺ハ、月也。功ノ聞耳君臣・偏正ノ事也。其外也。玉壺霜漏<sup>(76)</sup>トハ、冬ノ夜ノ漏也。

翠峯ハ、南也。高トハ、涼処也。大乗云、自己ノ賓主也。

下上

(76) 大本・面本「天臥」ヲ「天外」ニ作ル

〔徹通和尚之註〕

不變異處△今時常住△。無間斷時△自己法身也△。玉壺霜漏永、天外翠峯高△自己ノ賓主也△

(48) 上堂云、幻滅(77)故、非幻不滅。是ハ、圓覺經ノ文也。大乗云、這個還不生也、云々。忘知忘念ヲ休息スレバ、(靈)冥覺ノ性ハ、自圓満

スル光無レ不透、明無レ不徹。光明充塞ソゾ。長歌吹起棹頭風、永夜恣眠篷

底月。大乘云、此兩句ハ、只是一句。正恁<sup>(22)</sup>广<sup>テ</sup>、浮定<sup>テ</sup>有無、釣機密泄、三寸離

(77) 大本ニ「故」ナシ  
（78）「釣」ヲ、寛本「釣」、面本「鉤」ニ作ル

レ釣、要知<sup>ト</sup>貳節。是ハ、船子和尚ノ以行履<sup>(78)</sup>、一列云立タゾ。既知<sup>レ</sup>貳節、為什广却容<sup>ニ</sup>露柱多一口饒舌<sup>ト</sup>。答ハ、ノ道人ノ言語問良久云、却是長芦倒一說。大乘云、是什广ノ言語、云々。更ニ

答無心ハ露柱多口ナリ。良久云、却是長芦倒一說。言語ニ落子バコソ、露柱ノ舌ヨ。

〔徹通和尚之註〕

幻滅々非幻不滅△這ヶ還不生（不滅）也△。長歌吹起棹頭風、永夜恣眠篷底月△此ノ兩句只是一句也、深密不思議之句也△。倒一說△是什广<sup>(摩)</sup>言說ゾ△。

(49) 上堂云、歇須<sub>ニ</sub>歇得<sub>ル</sub>、用須<sub>ニ</sub>用<sub>一</sub>得密<sub>ル</sub>。歇得スレバ、歇モ無ク、用得スレバ、用ハ無ゾ。

此<sub>時</sub>冥<sub>ニ</sub>。密<sub>ニ</sub>。是<sub>ハ</sub>大歇<sub>ル</sub>。大用<sub>ニ</sub>。去社、

丹<sub>ニ</sub>霄<sub>ニ</sub>步<sub>一</sub>、轉<sub>一</sub>、清<sub>ニ</sub>曉風<sub>ニ</sub>廻<sub>一</sub>。トハ、自由自在ノ行履<sub>ハ</sub>。向去却來<sub>メ</sub>。極位向<sub>上</sub>ヲ

<sup>(79)</sup> 山川漱<sub>レ</sub>玉<sub>。</sub>トハ、マワソハ、見<sub>ニ</sub>正恁<sub>广</sub>時<sub>。</sub>作<sub>广</sub>生<sub>ニ</sub>一念万一年<sub>。</sub>宗非<sub>ニ</sub>促<sub>ニ</sub>延<sub>ト</sub>ハ、良久云、

<sup>(79)</sup> 云ヌカト<sub>ハ</sub>。野菊含<sub>レ</sub>金<sub>。</sub>

六<sub>一</sub>戸明如<sub>レ</sub>昼<sub>。</sub>懸<sub>ニ</sub>崖撒<sub>レ</sub>手看<sub>。</sub>如<sub>レ</sub>昼トハ、今日ニハ全ク墮<sub>ニ</sub>物<sub>ヨ</sub>、サ

テコソ、サテコソ、懸崖ニ撒<sub>メ</sub>手<sub>ヨ</sub>。

### 〔徹通和尚之註〕

歇須歇得<sub>ミ</sub>、用須用得密<sub>ハ</sub>歇□得時之一念<sub>ハ</sub>。用得一念<sub>（万年）</sub>也<sub>△</sub>。野菊含<sub>金</sub>、山泉瀨<sub>玉</sub>△<sub>三</sub>祖不言、了宗非促延、一念万年去故<sub>ハ</sub>△<sub>。</sub>懸崖撒手看。

(50) 上堂云、舟移<sub>レ</sub>遠<sub>一</sub>浦<sub>。</sub>風度<sub>レ</sub>長<sub>一</sub>淮<sub>。</sub>大乘云、可<sub>レ</sub>至<sub>レ</sub>那邊ニ云々。可<sub>ノ</sub>字、奇特<sub>ハ</sub>。遠浦・

長淮ハ、中流<sub>。</sub>移シ度ル<sub>。</sub>サテ、其ノ時節ハ、秋<sub>ニ</sub>露滿<sub>レ</sub>襟<sub>。</sub>寒<sub>ニ</sub>江溢<sub>レ</sub>目<sub>。</sub>トハ、秋光一色<sub>。</sub>爰ハ、マ

刃無<sub>レ</sub>傷<sub>。</sub>爰ハ、水天秋合<sub>メ</sub>、共<sub>ニ</sub>功<sub>ノ</sub>地ナレバ、功位不<sub>レ</sub>相欠<sub>メ</sub>、双明<sub>ハ</sub>。兩<sub>ニ</sub>是<sub>レ</sub>須<sub>ニ</sub>陌<sub>ニ</sub>路到<sub>ラ</sub>家<sub>。</sub>

刃ト云モ、隱頭功位ノ鋒<sub>。</sub>触<sub>レ</sub>テ傷ルナトハ、此外ヲ云ナリ。是<sub>レ</sub>須<sub>ニ</sub>陌<sub>ニ</sub>路到<sub>ラ</sub>家<sub>。</sub>

トハ、爰ハ、マダ途中ノ家<sub>。</sub>休<sub>レ</sub>問<sub>ニ</sub>讼<sub>レ</sub>流<sub>一</sub>取<sub>一</sub>節<sub>。</sub>トハ、前ノ遠浦・長淮、寒<sub>ニ</sub>江ノ流<sub>。</sub>雖然恁<sub>广</sub>、<sub>ト</sub>舍<sub>メ</sub>。本家ニテハ無<sub>ゾ</sub>。休<sub>レ</sub>問<sub>ニ</sub>讼<sub>レ</sub>流<sub>一</sub>取<sub>一</sub>節<sub>。</sub>トハ、時節トハ、到<sub>レ</sub>本家時節ヲ云タ<sub>ゾ</sub>。雖然恁<sub>广</sub>、<sub>ト</sub>

不<sub>レ</sub>廻<sub>ニ</sub>枯<sub>ニ</sub>木暖<sub>一</sub>、爭弁<sub>ニ</sub>石<sub>一</sub>頭吟<sub>一</sub>。大乘云、不<sub>レ</sub>因今日更、爭話<sub>ニ</sub>昨夜夢<sub>。</sub>此句ト一般<sub>ハ</sub>ト被仰<sub>タ</sub><sub>メ</sub>。<sub>メ</sub>、不動<sub>ハ</sub>。爰<sub>ガ</sub>吟<sub>ハ</sub>。

舟移遠浦、夙渡長淮△了々到那邊也▽。不廻枯木暖、爭弁石頭吟△不因今日叟、爭語昨夜夢一般  
△▽。

(51) 上堂云、大徹底人無徹可徹、大歇底人無歇可歇。非但玉樹開花、亦乃  
石人腦裂。沙休モ無ケレバ、則劫外。石人ト云ハ、仏祖未生ノ漁人・樵夫ヲ云。此肚裡ト一般  
ヨ。去社、直小林三一拝強茶糊、至今有理難分雪。<sup>(83)</sup> 強トハ、無用ノ義ヲ云。你得  
指單傳ナレ。小林三一拝強茶糊、至<sup>マテ</sup>今有理難分雪。吾髓ト云タハ、理ハ理ナレ共、  
真个樵人ハ、髓トモ知ラヌゾトナリ。

〔徹通和尚之註〕

大徹人徹無可徹△大善知識也▽。少林三拝△二祖逢祖翁達廣遷化、作禮依位而立。祖翁即云、得  
你我髓矣、為師者、是也茶糊△▽。至今有理、難分々雪△為人難說向也▽。

(52) 上堂云、風光溢目、翠色滿林。大乘云、大用現前。大用現前△大用現前。香嚴<sup>(23)</sup>上樹之機、トハ、  
禪ノ一機ヲ夾嶺出身之句、於撓下、自點頭。直下道得、堪報不報之恩。風光翠色ハ、劫外  
ノ時ヲ云。爰ニ承其一或未熐、祥雲籠紫閣、瑞雪貞紅爐。祥瑞ハ、出世ノ聞耳。向  
上ノ主ノ居處ナリ。宗門ノ極則トハ、本来無一物ノ處ヲ云タゾ。去社、吳紅炉トハ云タレ。

〔徹通和尚之註〕

(81) 大本ニ「底」ナシ  
(82) 大本「徹無可徹」ニ作ル

(83) 大本「難分々雪」ニ作ル

風光溢目、翠色滿林△大用現前也。是達廣不会句。▽瑞雪点紅炉△本来無一物也。▽。

(53) 上堂云、朝一晡飲<sup>イン</sup>啄、無<sup>レ</sup>処<sup>レ</sup>藏<sup>レ</sup>身。トハ、飲タイ儘ニ香、食タイ儘ニ食メ、其信施乃顧謂<sup>レ</sup>大衆曰、祇<sup>(84)</sup>今東<sup>一</sup>邊也着、西<sup>一</sup>邊也着。トハ、東西ノ二辺ハ、凡聖<sup>△</sup>。迷廻<sup>(85)</sup>避得<sup>ル</sup>广。良久云、一<sup>一</sup>昗<sup>ニ</sup>勘破了也。ト<sup>モ</sup>、胸<sup>ニ</sup>當タゾ。爰<sup>デ</sup>、一切消滅<sup>メ</sup>。底イハ、茶ヲバ茶ト飲、飯ヲバ飯ト喫<sup>メ</sup>。ト勘破スル。

〔徹通和尚之註〕

朝晡飲啄（逢茶喫茶、逢飯喫飯玄也）、無處藏身。還有廻得广△明々歷々難逃得了（避）▽。

(54) 上堂云、虛而靈、寂而妙。大乘云、教<sup>ニ</sup>明<sup>一</sup>密浩然<sup>ルモ</sup>、猶落<sup>レ</sup>鑑<sup>一</sup>啜<sup>ニ</sup>、明密浩然トハ、覽亦鏡上ニ迹<sup>ヲ</sup>付<sup>ヌ</sup>。此ヲモ削<sup>ム</sup>。作<sup>カ</sup>廣生是不<sup>レ</sup>落<sup>レ</sup>（23ウ）鑑<sup>一</sup>啜<sup>ニ</sup>。直<sup>ニ</sup>饒玄<sup>ヲ</sup>會得<sup>メ</sup>、猶是眼中塵。大乘云、不通<sup>レ</sup>風<sup>△</sup>。玄トハ、難<sup>レ</sup>弁<sup>ヲ</sup>云<sup>ゾ</sup>。難<sup>レ</sup>測<sup>ト</sup>モ、會得<sup>ス</sup>レバ、塵<sup>ト</sup>成<sup>ル</sup>ゾ。

〔徹通和尚之註〕

虛而灵、寂而妙△教誰知得也。▽不落鑑照△綿々密々（綿密）、不通風也。▽。

(55) 上堂云、道<sup>ニ</sup>得<sup>レバ</sup>第一句<sup>ヲ</sup>、不<sup>レ</sup>被<sup>レバ</sup>柱杖子<sup>ヲ</sup>瞞<sup>セ</sup>。トハ、大乘云、入頭最初<sup>△</sup>。主丈子迄<sup>ヨ</sup>休<sup>ノ</sup>一字<sup>タゾ</sup>。

(84) 寛本・面本「祇」ニ作ル  
(85) 大本「避」ナシ

大休大歇ヲ識ニ得柱杖子<sup>ルモ(桂)</sup>、猶是途中夏。<sup>(86)</sup> 全識也。主丈子ニ成トタゾ。猶一夏トハ、大乘云タゾ。

處、通處、不<sup>レ</sup>疑地、未<sup>レ</sup>見<sup>レ</sup>夢在<sup>ハ</sup>、云々。休<sup>ハ</sup>。故ニ削<sup>ハ</sup>。作广生<sup>カレ(87)</sup>是到<sup>一</sup>地頭之一句。トハ、大乗云、向上<sup>云々</sup>。

(86) 大本「途路中」ニ作ル  
(87) 大本「到地頭一句作廣生」ニ作ル

### 〔徹通和尚之註〕

道得第一句、不被主丈子瞞入頭ノ初<sup>ハ</sup>。識得主丈子、猶是途路中夏<sup>ハ</sup>縱至不疑心（地）也、夢未（未夢）見在也<sup>ハ</sup>。到地頭一句作广生<sup>ハ</sup>向上也。一句也<sup>ハ</sup>。

56 上堂云、處々覓不得、只有<sup>リ</sup>一處不<sup>レ</sup>覓自<sup>レ</sup>得。大乗云、覓ントセバ、夢ニモ見具足ナホド。且道、是那个一處。トハ、處々ト云ハ、功位也。偏正也。此良久云、賊心已露。ニナリ。兩處ニ不<sup>レ</sup>干一處トハ、サテ、ドコソ。良久云、賊心已露。ト云タゾ。良久ノ正當也。露ルトハ、ヨク賊ニ成タル義ナリ。

### 〔徹通和尚之註〕

處々覓不得、只有一處、不覓自得<sup>ハ</sup>人々具足物<sup>ハ</sup>。

57 上堂云、口一邊白一醭去、始得<sup>レ</sup>入門。大乗云、入頭<sup>シテ</sup>通一身紅爛去、更須<sup>レ</sup>知<sup>レ</sup>有<sup>二</sup>不出門底<sup>一</sup>。通身紅爛<sup>ノ</sup>、門トハ、玉闕ノ轉<sup>ル</sup>。良久云、<sup>(24)</sup>喚甚廣作<sup>レ</sup>門。<sup>(88)</sup> 大乗云、有<sup>二</sup>矣。向上ニ至<sup>テ</sup>見<sup>レ</sup>バ、一般ニメ、無<sup>レ</sup>阻。

〔徹通和尚之註〕

口辺白醭入頭辺ノ「」。通身紅爛入玉闕轉處也。須知有不峯門底入那邊玄氣（玄機）也。喚甚廣作門有什廣峯入。

上堂分畢。

## 法要

58 示衆云、撤レ手便レ行、向ニ什广処<sup>(89)</sup>去。トハ、大乘云、向去。什广処去トハ、更ニ千聖モ落レ処ヲ知ヌ処タゾ。不ニ与レ万

法侶、見レ聞覺知路子已断。サテ什广処、々々迄ヨ。明密々仏眼也覗不見。無ヅ。不可得也。

大休大歇、祇<sup>(90)</sup>是及レ得尽、用レ得活、見レ得徹、明レ得透。更難極。本イナレ共、大体大

明透シ、見徹シ、快活ナゾ。轉レ處純熟、無ニ毫髮計滲漏。々々ハ、煩口頭更無ニ仏法氣味、

何ヲ云ニモ、理脉自断、光影俱透。致・機関ヲ掃尽メ、異中吳到ル様子ヲ云也。如三万仞

懸崖放レ身、廊忘レ依レ倚。々々々處ガ、万仞壁タゾ。便レ能坐ニ断天下人舌頭、機々々隱

密、触レ處混融、功位正偏ヲ此ニ折合シ程ニ機<sup>(91)</sup>。一念万一年、真常躰露、一念ハ、正念也。正

々々々〔隱密触處混融シタゾ<sup>(24ウ)</sup>。〕

時万年トハ、三世一牧<sup>(枚)ヨ</sup>。俱行レ住坐臥、參到下藏<sup>(92)</sup>身不得処、深<sup>(93)</sup>避不<sup>(94)</sup>及<sup>(95)</sup>処。便

乃全身擔荷<sup>(ス)</sup>。藏身不得トハ、真常體露ノ義也。義染避不及トハ、此一念ハ万年ナレバ、圓満無際ニメ、亘古今ニ通レ大小ニ。全身ニ荷トハ、兩頭ヲ脱<sup>(ソ)</sup>處ヲ云。孤<sup>(ハ)</sup>明歴

々々無レ段無レ形。トハ、此那一物ヲ云也。万象光中、頭出頭沒、更無レ欠少。トハ、一念法也。中的也。

共見ヘ、サテ又ハ、無<sup>(94)</sup>祇<sup>(95)</sup>廣見成、个点灵然、元無<sup>(シ)</sup>断續。トハ、兩段ニ恁<sup>(セバ)</sup>廣觀得

内々外々圓陀々地、養ニ得爛骨堆地、始無<sup>(シ)</sup>過患、此那一物ガ、内ニハ々、外ニハ々ト、ツレテ不<sup>(レ)</sup>欠、圓陀々

(89) 寛本・面本「甚麼」ニ作ル

(90) 面本「祇」ニ作ル

(91)

寛本「縣」ニ作ル

(92)

寛本・面本「俱」ヲ「但」ニ作ル

(93)

寛本「探避」ニ作ル

(94)

面本「祇」ニ作ル

(95)

寛本・面本「始得」ニ作ル

地也。四大合成ノ身ヲ、一生養得テ無レ過患トハ、色身ニ不レ干也。然後一一叱掃却、向下乾坤那畔千聖万聖望不及處上、去、爰ニソ、一時ニシテ方知レ有ニ向上夏。向上ノ夏トハ、サテ何珍重。此二字ハ、尋常云夏ナレバ、向上ヲ云タゾ。ナレバ、何共理ヲ説カバ、向上ノ夏ニハアラズトハ。消遙錄、珍重、此言深。可意ガ註ニ云、此レ之。言ハ、教ハ、如珍宝之可レ動〔重ス〕焉。又僧史畧ニ、臨去辞云理重者何。此則見既畢竟情意已通一囁ヲ云々(25オ)。

〔徹通和尚之注〕

法要

示衆曰、撒手便行△向去也▽。

(59) 示衆云、參<sub>一</sub>得快<sub>一</sub>活、用<sub>一</sub>得自<sub>一</sub>在。實參ナレバナリ。便知<sub>レ</sub>有<sub>ニ</sub>休<sub>一</sub>歇底路<sub>一</sub>子<sub>一</sub>。  
トハ、ナマ得法ラスル者、觸<sub>一</sub>體前鑑<sub>ニ</sub>顧業識<sub>ヲ</sub>打<sub>一</sub>得断、夢<sub>一</sub>影鎖落<sub>ノ</sub>、徹<sub>レ</sub>頂徹<sub>レ</sub>底<sub>ニ</sub>、明而無<sub>レ</sub>  
痕<sub>。</sub>トハ、休歇底ノ人ノ行履ヲ云也。善惡共ニ、夢幻泡影トミレバ、無<sub>レ</sub>痕<sub>。</sub>尽虛空大<sub>一</sub>地<sub>ニ</sub>一時脱落<sub>シ</sub>、上下四維混<sub>一</sub>々<sub>ク</sub>無<sub>レ</sub>把<sub>。</sub>  
無<sub>レ</sub>捉<sub>。</sub>坐<sub>ニ</sub>斷佛祖言句<sub>ヲ</sub>、不<sub>レ</sub>被<sub>ニ</sub>天下老和尚<sub>ニ</sub>熾瞞<sub>。</sub>仏祖ノ言句ヲサヘ肯ヌニ、根<sub>ニ</sub>底透<sub>。</sub>  
漏絕<sub>ニ</sub>消息<sub>ヲ</sub>。トハ、万法ノ根源ヲ窮尽<sub>ニ</sub>依テナリ。尽<sub>ニ</sub>却<sub>レ</sub>今<sub>ニ</sub>耽<sub>ニ</sub>、恁<sub>ニ</sub>广<sub>ニ</sub>去<sub>。</sub>忘<sub>レ</sub>蹤忘<sub>レ</sub>迹<sub>ヲ</sub>、無<sub>レ</sub>方无<sub>レ</sub>  
所<sub>。</sub>没<sub>レ</sub>涯<sub>一</sub>際<sub>ヲ</sub>、絕<sub>レ</sub>畔<sub>一</sub>岸<sub>。</sub>絶<sub>ニ</sub>今時一味<sub>。</sub>タ程ニ、蹤迹モ、方処モ、涯際モ、畔岸モ無<sub>ゾ</sub>。何共落着スレバ、味ガデ<sub>ク</sub>ルゾ。揚<sub>一</sub>眉瞬<sub>一</sub>目<sub>。</sub>千  
里万里、有<sub>ニ</sub>甚<sub>ニ</sub>广<sub>ニ</sub>開<sub>レ</sub>口処<sub>。</sub>トハ、云イ将来ラバ、没交渉タゾ。但隨<sub>レ</sub>分着<sub>ニ</sub>此精<sub>ニ</sub>彩<sub>ヲ</sub>、<sub>(或ハ些カ)</sub>ニ承當セデハ  
云<sub>。</sub>更<sub>ニ</sub>向<sub>レ</sub>他人風<sub>一</sub>塵草<sub>一</sub>動<sub>。</sub>触<sub>レ</sub>境遇<sub>レ</sub>縁<sub>。</sub>尽<sub>レ</sub>底承當<sub>。</sub>更無<sub>レ</sub>別<sub>一</sub>法<sub>。</sub>トハ、大休歇底大歇底

ノ人ノ日用千変万化、自然打成一片常光現前、任運不昧。常光トハ、無分別ノ光ヲ云タゾ。千變万化ストモシ。黒只一个一片常光、亦須忘了。トハ、無心共持ヌゾ。是ヲ本光トモ云ベ光也。喚作智不到處、切忌道着。々々即頭一角生。何トモ手ヲ付テ珍重。

## 〔徹通和尚之註〕

参得快活△是実悟實參也▽。

(60) 示衆云、命根断底人、驀然転得來了。命「根断底」人ハ、向上剗底ノ人ヲ云タゾ。タゾ。轉得來了トハ、趣來機。言語上ニ無意ナリ。日用全<sup>ハ</sup>是本光。逆順得失、不見有<sup>ルヲ</sup>一絲頭許<sup>モ</sup>。トハ、絲髮モ此ニアテガイガナケレバ、何ニモ恰好相應ス。出沒應機、得<sup>ハ</sup>自在。謂下之隨順<sup>ルヲ</sup>世縁<sup>ニ</sup>無上<sup>モ</sup>罣碍<sup>ト</sup>。既能常不昧、トハ、天曉不露、夜半正明。無間斷、一念、通身恁<sup>シキ</sup>去、猶恐落<sup>ニ</sup>在肯重<sup>一</sup>、未得十成。トハ、是モマダ宗門十成<sup>シ</sup>ノ位デハ無ゾ、ト削ル。更須<sup>シ</sup>下轉<sup>ニ</sup>取旧<sup>一</sup>時<sup>(26)</sup>光彩<sup>一</sup>、得到<sup>中</sup>無弁<sup>一</sup>處<sup>上</sup>。々々トハ、父子一体、君臣合道ノ處ヲ云<sup>ベ</sup>。巧妙向背、淨<sup>シテ</sup>忘<sup>ム</sup>、トハ、偏正・夏モ無クハ、方知<sup>シ</sup>、不動<sup>ハ</sup>歩常在<sup>ル</sup>屋裡<sup>一</sup>。トハ、今時受用、但忘教似<sup>ニ</sup>枯木石頭牆<sup>一</sup>テ何ノ軌則<sup>ニ</sup>、方知<sup>シ</sup>、不動<sup>ハ</sup>步常在<sup>ル</sup>屋裡<sup>一</sup>。屋裡人タゾ。作用ヲ云タゾ。去社、絕<sup>シ</sup>知<sup>シ</sup>解<sup>シ</sup>、自然虛明歷々、無下一絲毫特地費<sup>ス</sup>壁瓦礫<sup>一</sup>。トハ、十二時中無心ノ<sup>ト</sup>、作用ヲ云タゾ。去社、絕<sup>シ</sup>知<sup>シ</sup>解<sup>シ</sup>、自然虛明歷々、無下一絲毫特地費<sup>ス</sup>心力<sup>一</sup>、處<sup>上</sup>。心力ト被仰タゾ。當位即妙ト云<sup>モ</sup>是<sup>モ</sup>。珍重。

(61) 示衆云、尽<sub>レ</sub>靈<sub>レ</sub>空<sub>レ</sub>大<sub>レ</sub>地甚<sub>レ</sub>麼處<sub>ヨリカ</sub> 得<sub>レ</sub>來<sub>ル</sub>。徹<sub>レ</sub>頂徹<sub>レ</sub>底<sub>ス</sub>、元<sub>レ</sub>是箇<sub>トレ</sub>段<sub>96)</sub> 光<sub>レ</sub>明<sub>。</sub>

※此ノ一段、『貫之抄』ニナシ、寛本ニヨリ補ウ

弥<sub>レ</sub>滿洞<sub>レ</sub>耀<sub>ス</sub>、不<sub>レ</sub>落<sub>レ</sub>意<sub>レ</sub>句<sub>ス</sub>、亘<sub>ニ</sub>塵<sub>リ</sub>沙<sub>レ</sub>却<sub>一</sub>、歷<sub>ニ</sub>恒<sub>レ</sub>沙<sub>レ</sub>界<sub>ヲ</sub>、廊<sub>トノ</sub>無<sub>レ</sub>變<sub>ヤク</sub>易<sub>。</sub>若<sub>シ</sub>

(96) 面本「一段光明」ニ作ル

念窮得<sub>シ</sub>、源<sub>レ</sub>底明<sub>透</sub><sup>(97)</sup>、直<sub>レ</sub>截擔<sub>荷</sub><sub>セハ</sub>、便与<sub>ニ</sub>三<sub>レ</sub>世<sub>ヲ</sub>諸<sub>レ</sub>佛<sub>齊</sub><sub>ルモ</sub>肩<sub>ヲ</sub>、猶落<sub>テ</sub>階<sub>級</sub>、未<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>向<sub>ト</sub>上<sub>。</sub>若<sub>シ</sub>掃<sub>レ</sub>却<sub>ノ</sub>玄<sub>レ</sub>微<sub>シ</sub>階<sub>級</sub>、智境法<sub>塵</sub>、向<sub>ニ</sub>未<sub>レ</sub>搖<sub>レ</sub>三<sub>一</sub>寸<sub>、</sub>已<sub>レ</sub>前<sub>ニ</sub>、澄<sub>レ</sub>想<sub>已</sub>俱<sub>ニ</sub>、  
尽<sub>ハ</sub>、照<sub>ハ</sub>而無<sub>レ</sub>迹<sub>、</sub>明<sub>ニ</sub>而無<sub>レ</sub>痕<sub>、</sub>混<sub>ニ</sub>々密<sub>ニ</sub>、千<sub>ニ</sub>聖<sub>モ</sub>亦摸<sub>レ</sub>索不<sub>着</sub><sub>ナラン</sub>。只<sub>シ</sub>箇<sub>モ</sub>摸<sub>レ</sub>索不<sub>着</sub>、  
亦非<sub>レ</sub>本<sub>ニ</sub>有<sub>。</sub>知<sub>ル</sub>落<sub>レ</sub>處<sub>底</sub>、合作<sub>レ</sub>麼<sub>ニ</sub>生<sub>、</sub>珍<sub>ニ</sub>重<sub>。</sub>

(97) 大本ハ「明透」ヲ「明徹」ニ作ル

〔徹通和尚之註〕

源底明徹<sub>ハ</sub>暗中暗<sub>(明)</sub>也▽。

(62) 示衆云、情<sub>レ</sub>境<sub>不<sub>レ</sub>透</sub>、見<sub>レ</sub>覺<sub>不<sub>レ</sub>圓</sub><sub>。</sub> 情境不<sub>レ</sub>透トハ、情滲漏底<sub>ハ</sub>ト、大乘ノ被仰タゾ。  
滲漏底ノ煩惱無ンバ、見聞覺知圓ナルベシ。

(98) 面本「高低」ニ作ル  
面本「識相」ニ作ル

(98) 見カ  
高<sub>レ</sub>處偏<sub>レ</sub>枯<sub>ス</sub>、便有<sub>レ</sub>向<sub>レ</sub>背<sub>。</sub>識情・妄智ニ碍ラレテ、<sub>シ</sub>蓋取<sub>レ</sub>捨揀<sub>レ</sub>擇<sub>、</sub>過患未<sub>レ</sub>尽<sub>、</sub>識<sub>レ</sub>想<sub>99)</sub>  
流注<sub>。</sub>滲漏<sub>。</sub>若<sub>ニ</sub>念混<sub>レ</sub>密淨<sub>ニ</sub>承當<sub>、</sub>任<sub>レ</sub>運現<sub>レ</sub>成<sub>、</sub>不<sub>レ</sub>須<sub>レ</sub>管帶<sub>。</sub>一致ニ透達

ノ時ハ、何ニ命脉自<sub>レ</sub>断<sub>、</sub>四大自<sub>レ</sub>脱<sub>、</sub>明々歷々<sub>トソ</sub>、喫<sub>レ</sub>タ<sub>26ウ</sub>肺廓<sub>タリ</sub>然<sub>。</sub>トハ、明鏡ノ影像モ無<sub>。</sub>モ碍ナイゾ。此时、

魔<sub>レ</sub>佛俱<sub>レ</sub>拂<sub>、</sub>甚<sub>ニ</sub>廣<sub>レ</sub>処<sub>。</sub>更得<sub>ニ</sub>迷悟生死一絲頭<sub>一</sub>來<sub>。</sub>トハ、只能識<sub>レ</sub>浪流注<sub>ヲ</sub>淨尽セバ、<sub>モ</sub>生死モ

(100) 寛本・面本「拂」ヲ「掃」ニ作ル

有ルベカラ  
ザルナリ。出家兒灰念枯一坐、索性打一教、トハ、念々如死灰、形相ハ如枯木ナラ  
落一々、尽レ底剝一断、トハ、此形骸ヲ、一向將ニ破皮袋・殼漏子<sup>(101)</sup>、衣單下子細臭檢<sup>(102)</sup>セヨ  
トハ、日々時々、此四大合成ノ身ヲ顧テ、死后ニ、苦報ヲ受ヌヤウニトヤ。不可開レ眼受レ瞞去<sup>(103)</sup>也。トハ、我ガ正眼開ケヌレバ、  
臘月三十日眼光落一地、紛<sup>ノ</sup>然失<sup>ノ</sup>路。トハ、平生修行メ、生死透脱ノ真道ヲ知ラ<sup>(トカハ)</sup>  
眇參究不徹<sup>(ルニ)</sup>。トハ、只々日々時々、心ヲ不<sup>レ</sup>許、生<sup>ニ</sup>死到来ノ夏ヲ措ベカラズ、ト戒タゾ。

〔徹通和尚之註〕

情境不透△情滲漏△△。

(102) 宽本「鶴漏子」ニ作ル  
(101) 寛本・面本「点検」ニ作化

惡底語、捨不不得者、俱為滲漏。トハ、合スル底ノ他ヲモ、直須淨尽灰歇、參教二  
穩密々地<sup>ニ</sup>、渾金璞玉去上<sup>ラ</sup>、那一人尚未レ肯在。却<sup>下</sup>若不<sup>レ</sup>捨却、呼為滲漏。

〔徹通和尚之註〕

坐得脱<sup>ハ</sup>坐死去人也（井ナカラ死玄人也）▽。

(64) 示衆云、但有<sup>レ</sup>言一句、都無<sup>レ</sup>實義。トハ、今時ノ學者ヲ千說<sup>(27ウ)</sup>万<sup>ス</sup>說、試為<sup>レ</sup>我拈一毛頭<sup>ヲ</sup>來<sup>レ</sup>看。トハ、千言萬語ノ内ニ、毛頭程モ實義無<sup>ベ</sup>。從<sup>レ</sup>朝至<sup>レ</sup>暮、虛空裡<sup>ニ</sup>喃々地。トハ、一臭モ實ト斗<sup>ゾ</sup>。苦哉、飽喫<sup>コテニシ</sup>飯了、開<sup>テ</sup>眼寐語<sup>ヲ</sup>。正眼開<sup>ケヌ故ヨ</sup>。阿你分上、甚生<sup>一ス</sup>次第。  
トハ、年ノ老少、臘ノ上下、混耀烜赫、密露堂々。トハ、真正ノ見解、本分ノ作有相報<sup>(執)</sup>著スルヲ云タゾ。株、絕<sup>レ</sup>邊<sup>一</sup>岸、<sup>トハ、根ヅク処ヲ打テ落シ、</sup>現成大用、快活<sup>(103)</sup>不<sup>レ</sup>徹、有甚<sup>シ</sup>大活<sup>セ</sup>計<sup>カ</sup>。トハ、物々ニヒツカヽツテ、何不<sup>レ</sup>占<sup>セ</sup>取、只<sup>レ</sup>管依<sup>テ</sup>他作<sup>レ</sup>解、認<sup>コラ</sup>口頭声色<sup>ヲ</sup>、トハ、<sup>シメ</sup>聞<sup>シ</sup>田地ニ到得<sup>シ</sup>ナルナリ。還<sup>テ</sup>知道<sup>ル</sup>記<sup>ヲ</sup>元字脚<sup>ヲ</sup>、<sup>モ</sup>万劫作<sup>ルト</sup>野狐上<sup>广</sup>。元字脚トハ、元ノ字<sup>モ</sup>。ノ處ヲモ、是ト以テハ、因<sup>ニ</sup>快須<sup>シ</sup>忘前失後去、家破人亡<sup>シ</sup>、路断忘<sup>レ</sup>飯去、垢<sup>ヲ</sup>尽<sup>テ</sup>果ニ落テ、苦報<sup>ヲ</sup>受ル<sup>ゾ</sup>。明現去<sup>ル</sup>。トハ、何ヲモ去<sup>レ</sup>サレト云ハ、是ト以タバ、毒海<sup>ヨ</sup>。禪師禪<sup>デ</sup>ハ無<sup>ゾ</sup>。良久云、不<sup>レ</sup>合<sup>ニ</sup>恁<sup>广</sup>道<sup>一</sup>。トハ、真歇<sup>ノ</sup>非珍重<sup>ヲ</sup>キヤウ<sup>マ</sup>。

(28オ)。

〔徹通和尚之註〕

現成大用△不存軌則也▽。

大本一那刃一二作化

上、不<sub>レ</sub>露<sub>レ</sub>面<sub>一</sub>目<sub>ヲ</sub>、直截向<sub>レ</sub>那<sub>(106)</sub>畔<sub>ニ</sub>、移<sub>シ</sub>歩轉<sub>レ</sub>身<sub>ヲ</sub>。百歩一目トハ、今時ヲ能ク尽メ、向<sub>レ</sub>那畔移<sub>シ</sub>歩<sub>ム</sub>、向去<sub>ム</sub>。本位ニ渕底スレバ、

真如実相ノ処也。還<sup>レ</sup>更有<sup>ニ</sup>撲不破底眼<sup>一</sup>广<sup>二</sup>。徹底スレバ、向去ニモ、却來ニモ、不<sup>レ</sup>干処也。去社ヨ、類不<sup>レ</sup>収<sup>トハ、今時ニ類メ、</sup>今時ニ不<sup>レ</sup>収<sup>トハ、</sup>也。

トハ、向上ニ混メ、向上ニ去ヌゾ。南泉喚作レ如々、早是变了也。今時ノ人、直須向ニ異類  
混不レ去、中行始得。趙州云、異即不レ問、如「何是」レ類。師、以レ手托レ地。芻以レ脚踏、師倒レ  
地。異ニ類ルハ向去ヘ。異ガ類スルハ、却来タゾ。中ニ行コソ、撲不破底ノ眼ヨ。百一般伎一倆不レ成<sup>(107)</sup>、蓋妙在レ躰処。トハ、異類中ニ向テ行タソ。若シ

107 宽本「伎伶」二作化

失<sub>ニ</sub>些<sub>ニ</sub>子<sub>ニ</sub>光<sub>ニ</sub>彩<sub>ニ</sub>、トハ、如<sub>ニ</sub>ノ変<sub>ニ</sub>明<sub>ニ</sub>露<sub>ニ</sub>天<sub>ニ</sub>地<sub>ニ</sub>、便<sub>ニ</sub>爲<sub>レ</sub>日<sub>ニ</sub>用<sub>レ</sub>所<sub>ニ</sub>留<sub>レ</sub>、不<sub>レ</sub>能<sub>レ</sub>透<sub>ニ</sub>塵<sub>ニ</sub>墨<sub>ニ</sub>劫<sub>ニ</sub>前<sub>レ</sub>  
威<sub>ニ</sub>音<sub>ニ</sub>路<sub>ニ</sub>外<sub>ニ</sub>。早<sub>ニ</sub>變<sub>レ</sub>了<sub>レ</sub>也<sub>ニ</sub>姿<sub>ニ</sub>、若<sub>ニ</sub>是<sub>レ</sub>大<sub>ニ</sub>徹<sub>ニ</sub>大<sub>ニ</sub>悟<sub>ニ</sub>、大<sub>ニ</sub>聞<sub>ニ</sub>提<sub>ラバ</sub>、毀<sub>リ</sub>佛<sub>ニ</sub>謗<sub>レ</sub>法<sub>ニ</sub>、不<sub>レ</sub>入<sub>ニ</sub>衆<sub>ニ</sub>數<sub>ニ</sub>

底漢、是コソ、異類中行メ、如ラ不レ変ヨ。咬レ釘咬レ鉄、坐ニ断歴劫来路子一、  
何ノ味ヲモ、不付ヲ云タヅ。没滋味ニ、咬着ノ處ガ、凡聖ノ消息断タ処タヅ。靈一然トゾウ、皎潔タリ。  
トハ、家風細密ニメ、混々没レ蹤跡。ノメ、不変易・無間歇、  
精愈明、愈ニ休愈歇、是迄ゾトハ云ヌゾ。此時コ  
脱レ造化。如此修行メコソ、真テ  
還有ニ索ニ性便恁广去者ニ广。ガ、畢竟極則タヅ。坐下ニ如此修  
如実相ナルベケレ。

有ルカトバシ  
行スル者バシ  
珍重。

〔徹通和尚之註〕

向那邊へ向去也▽。

(66) 示众云、尽十方世界是一颗明珠。トハ、大乘云、人々分上ノ一顆ノ鑊湯炉炭、  
劍樹刀山、發大悲光、演微妙法。トハ、塵尽テ、光ヲ生ル時節ヲ云ナシバルガ、  
眼一、歷々不昧、猶是驀路相逢、未得穩坐。トハ、宗門向上ノ眼ヨリハ、透玄関、  
出金鎖、妙尽到家、十成無弁、猶有氣息在。ト削タ所以道、有リ一人無三出、  
入息一。速道々々。則曰、不道。為什广不道。則知、不將來。只个(箇)、(29オ)  
不將來、还有窮得根底、明足為奇。トハ、不将来トモ将スコソ、窮根底ヤウヨ。若也已見未明、不  
知有向。向上夏。不将来共将スコソ、己見要コウセントア古人也。也太不容易。トハ、從上来  
モ向行如今眼光落地、如生龜脱殼、似方木逗圓。トハ、今生デ能ク修行  
履ノゾ。是ハ、俄ニ此時ニ爲形軀所留、被風火所苦。トハ、死苦ヲ受テ、カ蓋一念  
自由ナゾ。是ハ、死カ子タル体タゾ。至テ、死カ子タル體タゾ。  
々散乱、心識紛飛、臨終之時、暫欲下澄心靜慮、閉眉合眼、不爲幻妄磨  
滅、豈易得耶。トハ、平生ノ見解ハ、也須是硬鑪々、壁立千仞。トハ、何ニモ是ヲ不  
一一念恁廣去、万夏俱忘去、徹底剝了去、氣息都无去、那邊了却去、去レタレ  
バ深坑。落着セ直去使行如鳥道、坐若虚空、々想亦無。トハ、行住坐臥、十二時中、  
死人ノ如ニメ、軌則無ハズ。

箇  
个点灵然<sup>(29)</sup>トノ明密々地、任一運卓尔、恒無改一变。切中<sup>ケ点トハ</sup>一心法<sup>ハ</sup>。自性<sup>ハ</sup>。一中<sup>一</sup>豈<sup>ハ</sup>。中的<sup>ハ</sup>契當<sup>ハ</sup>。不死<sup>ノ</sup>理<sup>ヨ</sup>。

ケ点トハ、一心法。自性。一中一切中也。中的契當也。不死ノ理ヨ。豈

知レ有ニ今聴周一曲者一也。(108)  
解スル義也。知如<sub>下</sub>石室在<sub>レ</sub>杏山、  
踏<sub>レ</sub>碓撗<sub>ミヲ</sub>起脚<sub>レ</sub>、了忘<sub>一</sub>却<sub>シ</sub>

放下<sup>ルカ</sup>。トハ、無心ノ道人ノ行履ハ、皆如此也。什广処<sup>ニカ</sup>。去來<sup>スト</sup>。先聖則曰、親<sup>シル</sup>近來<sup>シル</sup>。近シ來タゞ。伊ニ親又<sup>レバ</sup>道、擬レ。

親即疎、擬<sup>レバ</sup>近<sup>ント</sup>即遠。トハ、知解スレバ一切如此<sup>ハント</sup>。只無心ニナラデワ、要<sup>レ</sup>知<sup>レ</sup>此<sup>一</sup>夏、大難々々。トハ、此夏ハ知ラントスル。

ニ依テ、大難ナゾ。其如今還有明暗尽處、光景落眸、不昧生死底廣。死自由ナ生心ヲモ休セヨト。ル人ヲ云良久云、五蘊身全尚不知、百骸散後何処覓。内ニ、知解ヲ能ク尽セバ、

落着ノ処ワ無ゾ。落処ガ有ラバ、苦報ヲ受ベキゾ。

〔徹通和尚之註〕

一顆明珠人々摩尼珠也（人々臭足摩尼珠也）也。

(67) 示众云、平白地構得徹底人、トハ、能修行果滿ノ、格外ニ超越スレバ、其眞ノ渙夫撲夫ノ肚裡タゾ。直截向裡許

擔荷。裡裡<sup>ハ</sup>許カ<sup>トハ</sup>、正法<sup>ヲ</sup>放得停穩、狼得<sup>(30オ)</sup>純熟。或ハ飲食心ノ<sup>ヲ</sup>安眠シ、<sup>ナル</sup>

云。坐却三寸舌頭テ、明如二百千日月シ。口頭ニ仏法ノ氣味無ケレバ、胸襟明白ニメ、夾物無ラ云々。便能截リ紋一彩断レ

機絲、爰ガ正法ニメ、仏祖未生ノ肚裡ナレバ、紋彩機絲無キナリ。一物不為、万縁冥応、万物不爲ナレバ、成現密

々、妙露堂々。正法ト云ハ、久遠今時無阻、仏法世法一般、色空不二、偏正功位一致ナリ。只廣如<sub>一</sub>今無<sub>レ</sub>能無伎俩。<sub>(109)</sub>トハ、能<sub>ゾ</sub>、云伎俩ゾト云。

108 面本「周由」二作ル

ハ、仏法ノ若猛著レ精一彩、歴劫來路子、只是當念、不レ移易一絲毫<sup>ヲ</sup>、トハ、猛ニ着ニ機識ナリ。

精彩トハ、能ク修行シツレバト云心也。瞑<sup>ム</sup>眞<sup>ム</sup>虛<sup>ム</sup>凝<sup>ム</sup>、迥絕<sup>テ</sup>依<sup>ム</sup>向<sup>ム</sup>。瞑ハ、本有天竺ノ瞑也。体

歷劫當念無<sup>レ</sup>阻ナリ。一念万年ト同イ。瞑<sup>ム</sup>眞<sup>ム</sup>虛<sup>ム</sup>凝<sup>ム</sup>トハ、兩位ヘ和セヌ義也。爰ガ正法也。絶<sup>ム</sup>依<sup>ム</sup>古聖廊爾大悟了<sup>テ</sup>、被<sup>レテ</sup>二人逼<sup>ム</sup>着<sup>ム</sup>、トハ、大悟ノ済底ヲ責

向トハ、不<sup>レ</sup>依倚、不<sup>レ</sup>趣向ノ義也。古聖廊爾大悟了<sup>テ</sup>、被<sup>レテ</sup>二人逼<sup>ム</sup>着<sup>ム</sup>、メ問レテ、ト云ギ也。

語帶<sup>ム</sup>玄<sup>ム</sup>而無<sup>レ</sup>路<sup>ム</sup>、心涉<sup>ム</sup>妙<sup>ム</sup>以難<sup>ム</sup>行<sup>キ</sup>。トハ、古聖ノ様子ハ、皆云タ夏モ作タ夏モ、皆知解ヲ不<sup>レ</sup>存<sup>ム</sup>、思量ニ不<sup>レ</sup>渡ナリ。則曰、乘<sup>ム</sup>

舟者迷<sup>ム</sup>、登<sup>ム</sup>機者失<sup>ム</sup>。大悟ト云ハ、正法ニ契當スルヲ云タ(30ウ)ゾ。爰ニ済底ヲ見レバ、昔日ノ

乗<sup>ム</sup>舟者迷トハ、特々トソ達磨ハ正法ニ迷<sup>ム</sup>。登<sup>ム</sup>機者失トハ、积迦モ正法

ヲ失ナ<sup>ム</sup>。當知、尊貴不落意思、没量大黃面老兒<sup>タモ</sup>、尚只得ニ一場慚<sup>ム</sup>懼<sup>ム</sup>。トバ、瞿曇ノ出世<sup>リ</sup>。

勞而無功ト見<sup>タ</sup>。如今信<sup>ム</sup>彩開<sup>バ</sup>口<sup>ヲ</sup>、還知<sup>レ</sup>無<sup>レ</sup>利益廣<sup>(モ)</sup>。トハ、正法ニ至テハ、言説ハ

タゾ。況ヤ、如<sup>ム</sup>今信<sup>ム</sup>彩開<sup>バ</sup>口<sup>ヲ</sup>、還知<sup>レ</sup>無<sup>レ</sup>利益廣<sup>(モ)</sup>。入ラヌゾ。利益モ無用也。也須下是

性<sup>ヲ</sup>燥都忘了<sup>ム</sup>、決定不<sup>レ</sup>流<sup>ム</sup>入第一念<sup>ム</sup>。トハ、平白地上構得<sup>ム</sup>。徹底ノ人ナルベシ。歷然明徹去<sup>ム</sup>、方<sup>ニ</sup>知不<sup>レ</sup>

到<sup>ム</sup>衲僧口裡<sup>ム</sup>。十成ニ正眼ヲ開得テ、歷劫ナヲモ、衲僧門下デワ<sup>ム</sup>。サゾトハ、落合マイゾ。サテコソ、祖師禪ナレ<sup>ム</sup>。

### 〔徹通和尚之註〕

平白地<sup>ム</sup>雪<sup>ム</sup>一辺田地也<sup>ム</sup>。

(68) 示众云、悟<sup>ム</sup>得<sup>ム</sup>紙衣下用<sup>ヲ</sup>、紙衣下ノ<sup>ヲ</sup>更<sup>ム</sup>ト云ハ、主人公ノ更<sup>ム</sup>也。着<sup>ム</sup>衣底ノ人ヲ云<sup>バ</sup>。用ト

云時ハ、脫<sup>ム</sup>衣ヤウ<sup>ヲ</sup>云<sup>バ</sup>。衲衣下ト一般<sup>ム</sup>。禪和子ノ一大夏<sup>ム</sup>。

ト、大乘ハ被仰タゾ。智<sup>ム</sup>只解<sup>ム</sup>恁麼去<sup>ム</sup>。トハ、拏<sup>ム</sup>明<sup>ム</sup>得<sup>ム</sup>一色邊夏<sup>ム</sup>、未<sup>レ</sup>會<sup>ム</sup>先師意<sup>ム</sup>。

者生死如<sup>ム</sup>衣服ト云タゾ。古人ハ許サ<sup>ム</sup>タゾ。自<sup>ム</sup>餘<sup>ム</sup>隱峰倒卓<sup>シ</sup>、トハ、鄧隱峰臨滅<sup>ム</sup>、諸方<sup>ム</sup>遷化ルニ、灌溪駐<sup>ム</sup>步<sup>ム</sup>、吾倒立<sup>テ</sup>而化去<sup>ム</sup>。灌溪駐<sup>ム</sup>步<sup>ム</sup>、吾倒立<sup>テ</sup>而化去<sup>ム</sup>。

九峰ノ虔<sup>ム</sup>ノ<sup>ヲ</sup>。古人ハ許サ<sup>ム</sup>タゾ。

(110) 寛本「依尚」ニ作ル

(111) 大本「用」ヲ「更」ニ作ル

(112) 面本「飯」ナシ

々々問レ侍者、坐ノ死者ハ誰ソ。云、僧伽。師云、立無業<sup>(31)</sup>、<sup>テ</sup>後之人<sup>ニク</sup>、無業<sup>(31)</sup>國師、  
テ死者ハ誰。云、僧會。御了行、六七歩、垂手而逝。無業問隨後之人<sup>ニ</sup>、憲宗帝徵召、<sup>\*</sup>師  
辭不<sup>レ</sup>趣。穆宗即位、願順天心、貧道何德累煩世主。且請前行、吾從別道去。乃沐浴剃髮、至中夜踟趺而遊（逝カ）。本則長故略之。大顛說無聲三昧<sup>トハ</sup>。僧問  
苦海波深、以何為船筏。顛云、以木為船筏。云、恁麼則得渡也。師云、盲者依前盲、病者依前病。

或聞鼯鼠而便脫、或為愚痴而再来、

或堅指而休、或翻船而往、一々坐亡立化。古人ハ皆以如此、生死ニ<sup>(箇)</sup>、<sup>タシヲ</sup>個々逞<sup>シ</sup>神現<sup>レ</sup>  
通。何モ生死ノ苦海ヲ不<sup>レ</sup>怖メ、活鱗々ニ<sup>ノ</sup>遊<sup>マ</sup>。涅<sup>モ</sup>其密也<sup>タジル</sup>、目擊正容、其混也忘<sup>メ</sup>蹤失<sup>シ</sup>迹。  
密處<sup>デ</sup>ハ露レ混<sup>レ</sup>處<sup>デ</sup>ハ蹤跡モ用<sup>レ</sup>得純熟<sup>セバ</sup>、撒<sup>レ</sup>手自由。彼<sup>ヘ</sup>モ撒<sup>シ</sup>、此<sup>ヘ</sup>モ展<sup>タ</sup>手<sup>マ</sup>。満路<sup>ニ</sup>  
忘失、更ニ途轍ナキ義ナリ。桺ノ彼岸ヲモ不<sup>レ</sup>樂透過シ、更ニ途轍無ナリ。光<sup>リ</sup>生<sup>シ</sup>、廻無<sup>レ</sup>依着。滿路光生トハ、本分ノ光輝ヲ用得、自由ナルヲ云。此雖<sup>ニ</sup>衲僧平常轉身時<sup>ト</sup>  
節<sup>ト</sup>也、未<sup>レ</sup>有<sup>ニ</sup>一機緣<sup>(13)</sup>。トハ、真歇ハ、爰ヲモ全提トハモ珍重。

## 〔徹通和尚之註〕

紙衣下更<sup>△</sup>（垂示也。）衲衣下更ト一般<sup>△</sup>。禪和子一大更也<sup>△</sup>。法要分畢。